

小項目4 **ウエイト** 「21世紀COEプログラムに基づく世界最高水準の研究を目指す」の分析

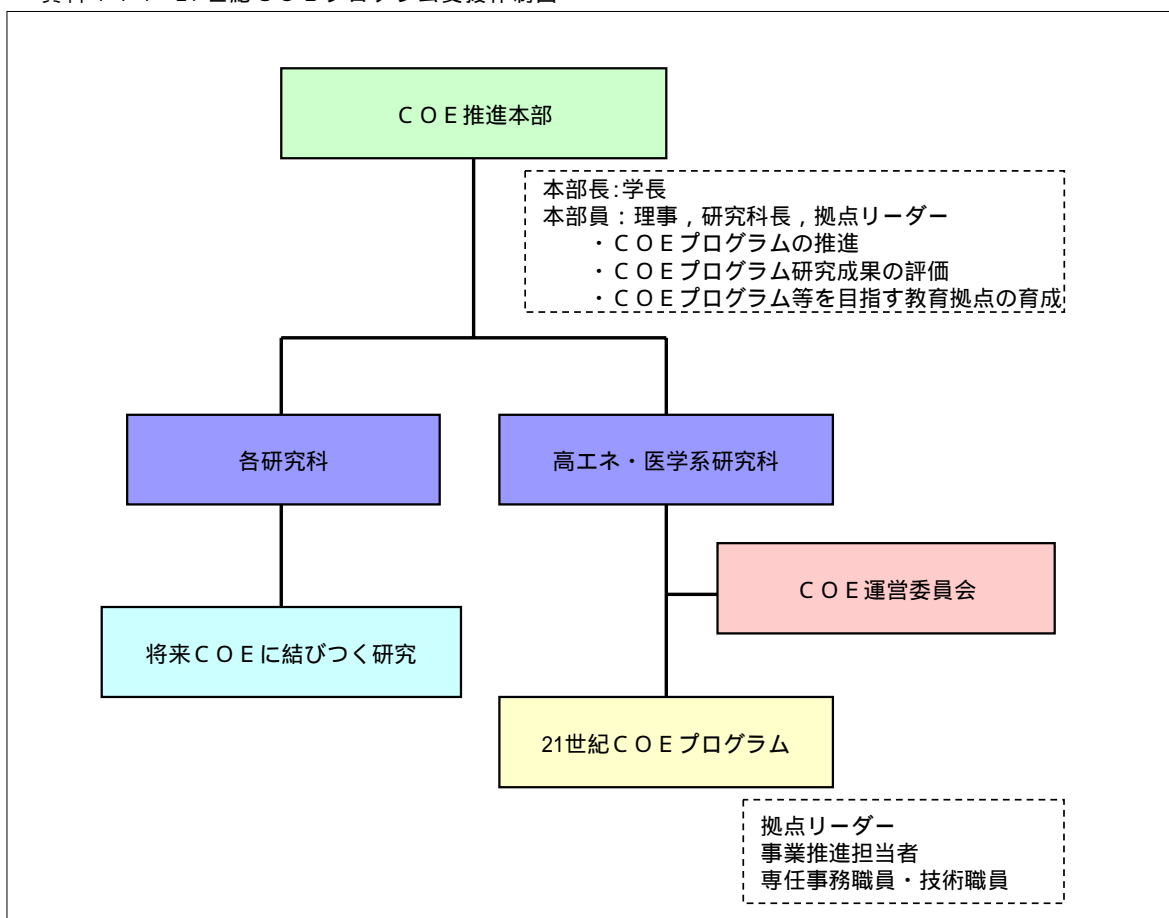
a) 関連する中期計画の分析

計画 4-1 「21世紀COEプログラムに基づく世界最高水準の研究教育拠点形成を推進する。」に係る状況

21世紀COEプログラムの支援体制

学長を本部長とするCOE推進本部及びCOE運営委員会の設置，専任事務及び技術職員の配置等による支援体制を構築した【資料 4-1-1】。コアとなる高エネルギー医学研究センターを統合後の全学組織に位置づけ重点化するとともに，COE 教員制度の整備，COE 特別研究員，博士研究員の採用により学術的研究体制を整えた【資料 4-1-2,3】。

資料 4-1-1 21世紀COEプログラム支援体制図



(事務局資料)

資料 4-1-2 COE 研究支援体制の状況

	平成 15 年度 (人)	平成 16 年度 (人)	平成 17 年度 (人)	平成 18 年度 (人)	平成 19 年度 (人)	計(人)
研究員	3	4	6	7	4	24
技術者			1	1		2
技術補佐員	4	5	8	9	9	35
事務補佐員			1	2	3	6
RA						0
計	7	9	16	19	16	67

(高エネルギー医学研究センター資料より)

福井大学COE教員取扱要項 (抜粋)

平成 16 年 4 月 1 日
学長裁定

(趣旨)

第 1 この要項は、福井大学(以下「本学」という。)における研究拠点形成費補助金(以下「補助金」という。)による事業(以下「21 世紀COE 事業」という。)のために雇用される教員に関し、必要な事項を定めるものとする。

(略)

(名称等)

第 2 補助金により雇用される教員の名称は、COE 教員とする。

2 COE 教員は、教授に相当する者、准教授に相当する者及び助教に相当する者とする。

(略)

(職務内容)

第 6 COE 教員は、21 世紀COE 事業における教育研究に従事するものとする。

(略)

福井大学COE 研究員取扱要項 (抜粋)

平成 16 年 4 月 1 日
学長裁定

(趣旨)

第 1 この要項は、福井大学(以下「本学」という。)における研究拠点形成費補助金(以下「補助金」という。)による事業(以下「21 世紀COE 事業」という。)のために雇用される研究員に関し、必要な事項を定めるものとする。

(名称)

第 2 補助金により雇用される研究員の名称は、COE 研究員とする。

(略)

(職務内容)

第 5 COE 研究員は、21 世紀COE 事業における研究に従事するものとする。

(略)

福井大学COE 教育研究支援者取扱要項 (抜粋)

平成 16 年 4 月 1 日
学長裁定

(趣旨)

第 1 この要項は、福井大学における研究拠点形成費補助金による事業(以下「21 世紀COE 事業」という。)を推進するために雇用される教育研究を支援する者(以下「COE 教育研究支援者」という。)に関し、必要な事項を定めるものとする。

(略)

(職務内容)

第 4 COE 教育研究支援者は、拠点リーダーの指示に従い、21 世紀COE 事業の支援業務に従事するものとする。

(略)

福井大学COE リサーチ・アシスタント(RA)取扱要項 (抜粋)

平成 16 年 4 月 1 日
学長裁定

(趣旨)

第 1 この要項は、福井大学(以下「本学」という。)における研究拠点形成費補助金による事業(以下「21 世紀COE 事業」という。)のために雇用されるリサーチ・アシスタント(以下「COE リサーチ・アシスタント(RA)」という。)に関し、必要な事項を定めるものとする。

(略)

(職務内容)

第 4 COE リサーチ・アシスタント(RA)は、21 世紀COE 事業に必要な補助業務に従事するものとする。

(略)

(「福井大学規則集」より)

生体画像医学研究教育
 大学組織を活用したIAEAトレーニングコース，国際・国内ワークショップ開催等
 により，生体画像医学研究教育の拠点形成を図った【資料4-1-4】。

資料4-1-4 生体画像医学研究教育

IAEAトレーニングコース

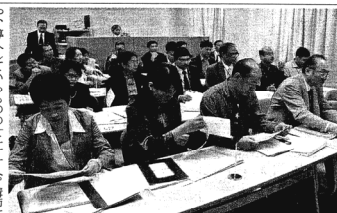
平成17年度に「IAEA・RCAポジトロン断層撮影トレーニングコース」を開催し，アジア地域9カ国21名の参加者を含め，5日間にわたる研修を実施した。当研修会は，アジア原子力地域協力協定に基づくもので，本学が所有する最新鋭の画像診断装置を利用し，高度な診断技術等を学習した。

「IAEA・RCAポジトロン断層撮影トレーニングコース」プログラム - 抜粋 -

Agenda (tentative)		
Monday, 3 October 2005		
08:00-11:30	Move from Kansai to Fukui	Lecturers
11:30-12:00	Opening Ceremony -By Course Director- -By Dean of The University--	Dr. Fujibayashi (Course Director) Dr. Itoh (Dean of The University) Dr. Dondi (IAEA)
12:00-12:30	Programmatic Nuclear Medicine Activity in the IAEA	
12:30-14:00	Lunch (hosted by IAEA) & Reimbursement	
14:00-14:30	Pre-course evaluation	Dr. Dondi
14:30-15:00	Objective of RAS6042 & Overview of Nuclear Oncology - PET-	Dr. Tanada (Lead Project Coordinator of RAS6042)
15:00-15:30	Break	
15:30-16:00	PET Concept I - PET and PET/CT, fusion	Dr. Yonekura
16:00-16:30	PET Concept II - Cyclotron and synthesizer	Dr. Ido
16:30-17:00	PET Concept III - Radiopharmaceutical design	Dr. Fujibayashi
Tuesday, 4 October 2005		
09:00 - 09:30	Radiation Safety for PET facilities -To get permission to enter into facilities-	Dr. Fujibayashi
09:30 - 09:45	Distribution of Personal Dosimetry by IAEA	Dr. Dondi
09:45 - 10:45	Guidance on PET Facilities -Ground Design- -Movement of Employees and Patients- -Germ-Free Environment for Production- -Clinical Practice vs. Research-	Dr. Fujibayashi & Dr. Kasamatsu Facilitators: Dr. Ido, Dr. Mori, Dr. Eshizawa, Dr. Sun

(高エネルギー医学研究センター資料)

放射線診断をアジアにも
 IAEA加盟9カ国医師ら参加
 最先端画像診断装置，は初め，協定国に導入されたPET-CT装置が，IAEA加盟国の放射線利用（PET-CT）の普及を目的とした研修会に開催された。研修会には，IAEA加盟国の放射線利用（PET-CT）の普及を目的とした研修会に開催された。研修会には，IAEA加盟国の放射線利用（PET-CT）の普及を目的とした研修会に開催された。



PET技術を学ぶためIAEAの研修に臨むアジア各国の医師ら＝3日、福井大高エネルギー医学研究センター
 長IAEA所属の医師約十五人が，初日の3日は，一行を伊藤春海医学部長らが歓迎した後，米倉センター長の基礎知識を指導。七日まで座学実技を通じてPETの取り扱いや診断技術を学び，藤林教授はセンターの研究成果を還元できることは意義深いと話している。研修会場は，PET-CTの導入を計画している国々，近いうちにPETを導入する計画がある。日本の技術を吸収し，母国で活かしたいと意気込みを語った。

(福井新聞 H17.10.4)

ワークショップ

開催日	開催場所	担当者	テーマ
H16.8.30	福井大学 (看護大講義室)	米倉 義晴	生体画像医学の統合研究プログラム
H17.12.13 ~14	ユアーズホテルフクイ	米倉 義晴	The Third International Workshop on Biomedical Imaging
H17.3.14	福井大学 (アカデミーホール)	佐藤 真	神経科学における多様なイメージング技術の応用と統合
H18.9.23	福井商工会議所 (国際ホール)	藤林 康久	Cell signaling for pharmacological targets and bioimaging research

セミナー

開催日	演者	演題
H16.6.14	慶應義塾大学 医学部医化学教室 教授 末松 誠	メタボローム解析による低酸素性赤血球代謝リモデリングと微小循環病態制御
H16.9.22	京都大学 名誉教授 眞崎 知生	エンドセリン 発見から病気との関連、創薬まで
H16.9.24	Department of Anatomy&Developmental Biology,University College London Professor John G. Parnavelas	CORTICAL INTERNEURON MIGRATION
H16.11.1	フレデリックジョリ病院 脳機能画像研究所 教授 Denis Le Bihan	Bridging the gap between brain and function with MRI
H17.11.2	東京大学 大学院薬学系研究科 助手 浦野 康照	Rational and Flexible Design Strategies of Novel Fluorescence Probe
H19.3.12	新潟大学 大学院医歯学総合研究科 助教授 小田野 行男	18F-Flumazenil とその動態解析
H19.10.11	McGill University Professor Mirko Diskic	Serotonin synthesis alteration and brain disorders

(高エネルギー医学研究センター資料)

国際的な教育研究拠点形成

国内外機関との学術協定締結（国際 5 機関，国内 1 機関）【資料 4-1-5】，先導的な共同研究【資料 4-1-6,7】を実施している。

画像医学研究領域において世界的に高水準の研究環境を整備し【資料 4-1-8】，国内外研究者の受入れ，国際学会の運営並びに会議開催・若手研究者の育成等，国際的研究拠点の役割を果たした【資料 4-1-9】。

資料 4-1-5 学術協定締結

機 関 名	主な交流内容
部局間学術交流協定	
ワシントン大学医学部マリクロット放射線医学研究所(米国)	外部評価，留学生交換，サイクロトロン利用技術開発，共同研究
テキサス大学ヒューストン健康科学センター(米国)	分子イメージング共同研究
大学間学術交流協定	
テキサス大学 M.D.Anderson がんセンター(米国)	分子イメージング共同研究
インド工科大学カラプール校(インド)	分子イメージング共同研究，大学院学生指導
ジョセフ フーリエ大学(フランス)	分子イメージング共同研究，研究者・学生の交流
(独)放射線医学総合研究所	分子イメージング共同研究

(事務局資料)

資料 4-1-6 主な国際共同研究(平成 19 年度)

機関名	国名	研究名称
ワシントン大学	アメリカ	Cu, Br の製造に関する研究
テキサス大学 M.D. Anderson がんセンター	アメリカ	Br, T-NET に関する研究
グルノーブル大学	フランス	RGD, ポリマーに関する研究

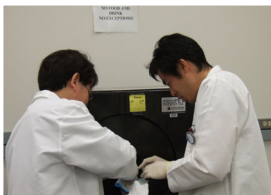
(事務局資料)

資料 4-1-7 国際共同研究事例

事例 : テキサス大学MDアンダーソンがんセンターとの共同研究



MDアンダーソンがんセンター



実験の様子

平成 16 年度にテキサス大学MDアンダーソンがんセンターとの大学間国際交流協定を締結し,高エネルギー医学研究センター教員が新しい腫瘍イメージング用分子プローブの評価を行うために渡米して Experimental Diagnostic Imaging 部門との共同研究を実施した。その結果,当該プローブを用いると神経提細胞由来の腫瘍を分子イメージングできる可能性が見出された。

事例 : 原子力研究交流制度に基づくPETに関する研究指導

高エネルギー医学研究センターでは,文部科学省平成 19 年度原子力研究交流制度により,バングラデシュからの核医学の准教授 1 名を受入れ, PET (陽電子放射線断層撮影装置) に関する研究指導を行っている。バングラデシュには現在 PET 施設がなく,数年後に 1 施設が稼動する予定である。そこで,国際的に評価の高い福井大学で PET に関する研究及び臨床現場を視察することによって得た経験・知識をバングラデシュに持ち帰り,本国内で指導者として活躍する予定である。



PETによる診断の様子

事例 : タイチュラボーンがんセンターとの遠隔医療実験

高エネルギー医学研究センターとタイのチュラボーンがんセンターサイクロトロンPETセンターとを研究開発ネットワーク「JGN」で結び,高速で鮮明なデータ送受信により遠隔地間の医療行為に活用するための共同実験を開始した。

同装置を利用し,共同セミナーによる研究者同士の交流・遠隔医療用のソフトウェアの開発等を実施し,発展途上国への国際遠隔医療の実現を目指している。

国境超え がん診療



システムの具体的な運用をタイの研究者たちと話し合う。参加した者(右)は、本学専攻の福井大学松崎千洋(左)と、タイのチュラボーンがんセンターの准教授らである。

タイの研究施設と協力

タイのチュラボーンがんセンターは、本学専攻の松崎千洋(左)と、タイのチュラボーンがんセンターの准教授らと共同で、PETのデータを送受信するための共同実験を開始した。

患者データを高速、鮮明に送受信

福井大の実験始動

タイの研究施設と協力

タイのチュラボーンがんセンターは、本学専攻の松崎千洋(左)と、タイのチュラボーンがんセンターの准教授らと共同で、PETのデータを送受信するための共同実験を開始した。

(県民福井 H19.11.13)

(事務局資料)

資料 4-1-8 高エネルギー医学研究センターの世界的高水準の研究環境

研究を支える高精度な設備

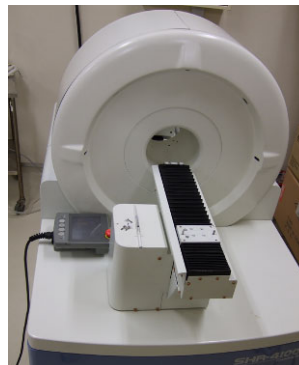
高エネルギー医学研究センターは、ガンなどの診断に威力を発揮するポジトロンCT(PET)装置や、導入例の少ない高精度の装置、国内唯一の装置などを多数有し、専門の研究機関としては、国内外を見ても稀少な研究施設です。

下の写真をクリックすると拡大表示します。

放射性薬剤製造設備	臨床研究設備	基礎研究設備
 ■ サイクロトロン	 ■ 臨床用PETスキャナ	 ■ 動物用PETスキャナ
 ■ サイクロトロン	 ■ LC-MS/MS	 ■ 研究用ホットセル+Cu-64製造システム
 ■ 臨床用ホットセル+薬剤自動合成装置	 ■ 赤外光測定装置 ■ 画像分析ワークステーション ■ 血液ガス分析装置	 ■ 分子生物学実験装置
 ■ 薬剤検定装置	 ■ 赤外光測定装置	

小動物 PET, セミホットセル, 団体ターゲット処理システム, サイクロトロン 2 号機を導入し、研究環境を整備した。

<小動物用 PET 装置>



<セミホットセル>



<画像処理用パソコン>



右側：画像再構成用パソコン(白)(SHR03)とモニター
中央：操作用コンソールパソコンとモニター
左側：画像解析用パソコンとモニター

資料 4-1-9 学界等への貢献及び人材育成

< 学会開催 >

The Third International Workshop on Biomedical Imaging (Fukui-2004) 2004年12月 福井
 FASMI 2006年5月 京都, 9月 ハワイ, 2007年6月 福井,
 2007年9月 プロビデンス(米国)
 2008年3月 Web会議
 JSMI 設立 2006年5月 京都

< 人材育成 >

IAEA ワークショップ開催 2005年10月 福井
 外国人研究者受入 4名
 Web会議システムを導入し、タイと遠隔カンファレンスを行った。

若手研究費採択		
年度	件数	金額 (円)
平成16年度	6	4,500,000
平成17年度	11	7,100,000
平成18年度	3	6,000,000
平成19年度	3	6,000,000
計	23	23,600,000

若手海外出張旅費支給		
年度	件数	金額 (円)
平成18年度	5	1,672,080
平成19年度	5	1,619,770
計	10	3,291,850

(事務局資料)


計画 4-2 「生体内の様々な機能情報を画像化するための標識薬剤の開発研究とデータ収集・解析法の開発研究を行い，悪性腫瘍，脳疾患，心疾患などにおける臨床的意義の確立を目指す。」に係る状況

(表：42-07)

21 世紀COE【資料 4-2-1】，リーディングプロジェクト等の大型研究費を基盤として，低酸素組織集積[Cu-62] A T S M等の多様な標識薬剤を開発した【資料 4-2-2】。この内，低酸素組織集積[Cu-62] A T S Mの研究は，放射線医学総合研究所他 3 大学との多施設共同研究を経て臨床応用を開始した。

また，乳癌・骨盤内腫瘍を標的とするエストロゲンリガンドを国内で初めて臨床応用した。さらに，PET，MRIを用いた新規データ収集・画像解析法を確立した【表：42-07-2011,2006,2013,2009,2010,2014,2015,2005,】。【資料 4-2-3】【 表 42-07】

資料 4-2-1 21 世紀COEプログラム事業「生体画像医学の統合研究プログラム」について



世界水準プロジェクトに参画
21世紀COEプログラム
福井から世界最高水準の研究成果を創出します。限界における、世界最新レベルの医学・医療研究。その先端的かつ独創的研究を推し進め、傑出した人材を輩出する。研究教育拠点を形成することを目的に文部科学省が推進するプロジェクト。それが21世紀COE(センター・オブ・エクセレンス)プログラムです。

平成15年度採択プログラム
「生体画像医学の統合研究プログラム」

【生体画像医学から新しい診断・医療の創成】


- ・生命現象の理解から疾患の理解へとつながる新知見の発見
- ・臨床診断、治療につながる薬物、技術の創成

【“近代の知”と“臨床の知”を併せ持つ人材の育成】

- ・近代の知：分子生物学を代表とする解析的研究能力
- ・臨床の知：多面的生命現象の統合的解釈能力

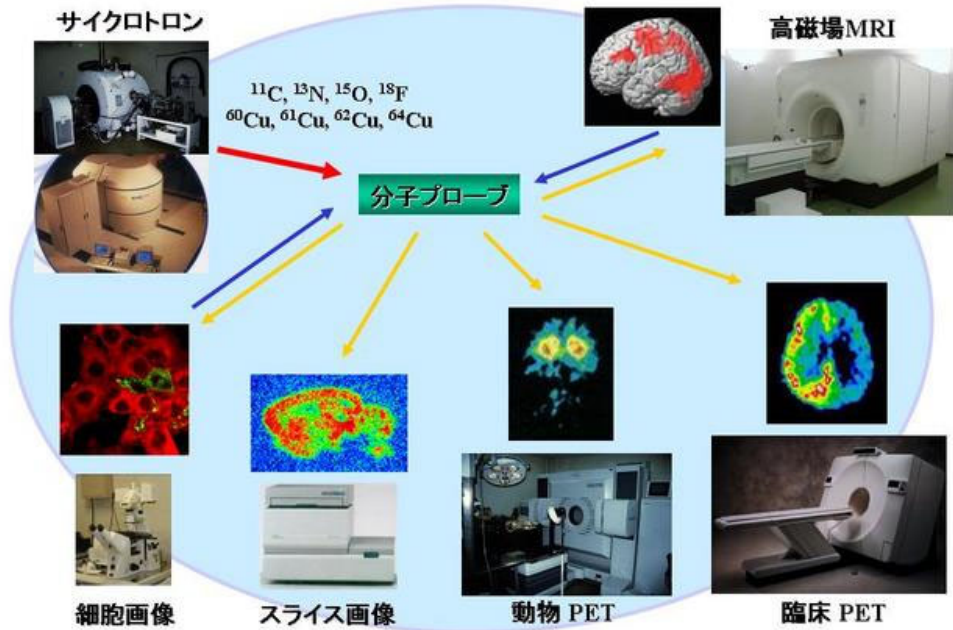
【人材を育くむ環境の整備】

- ・有機的に組織された実験機器と高度研究支援者集団
- ・基礎研究機器から臨床診断機器までの一括運営・管理
- ・高度研究支援者の養成と指導
- ・アイデア重視の研究指導・支援
- ・プロジェクト提案型研究の指導・独立支援
- ・博士研究員・リサー チアシスタント制度による支援
- ・独創性、研究実施能力に対する的確な評価システム
- ・COE運営委員会の設置



プロジェクトリーダー
高エネルギー
医学研究センター
センター長
藤林 雄久

[プログラム詳細へ](#)



サイクロトロン (11C, 13N, 15O, 18F, 60Cu, 61Cu, 62Cu, 64Cu) → 分子プローブ → 高磁場MRI

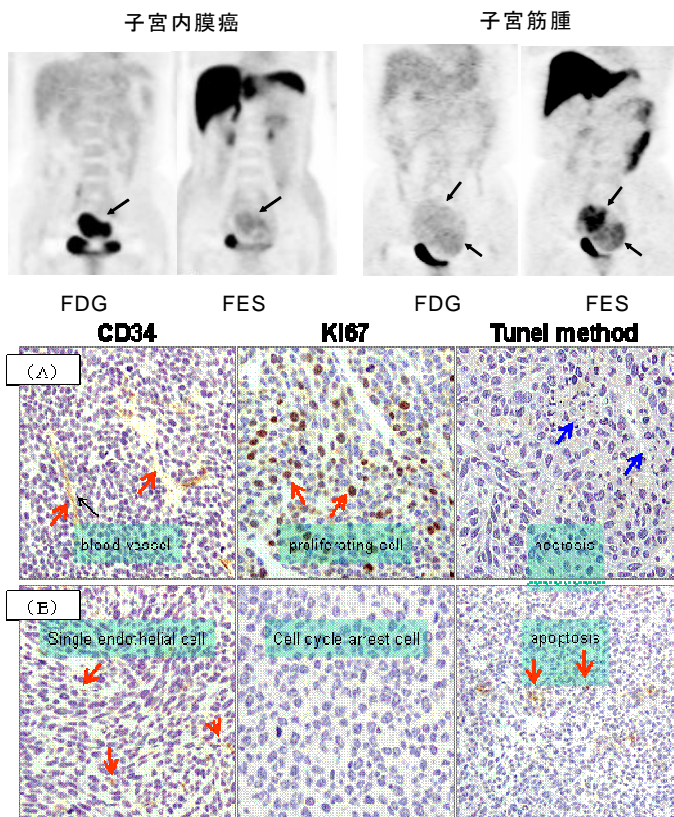
分子プローブ → 細胞画像, スライス画像, 動物 PET, 臨床 PET

(本学HP及び高エネルギー医学研究センター資料より)

資料 4-2-2 多様な標識薬剤の開発研究

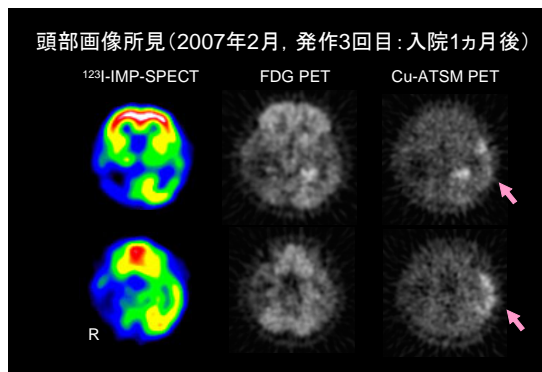
基礎的研究成果

エストロゲンレセプターをイメージングする薬剤として F-18-estradiol (FES) 自動合成システムを開発し臨床に供した(上図)。これとは別に [Cu-62] Cu-ATSM の低酸素がん親和性と低酸素がんの代謝特性について詳細に検討を行った。その結果、がん内 Cu-ATSM 集積部位には血管新生がみられず増殖細胞も非常に少ないにも関わらず壊死しないという非常に制御された状態のがん細胞群が見出された(下図)。これらは治療抵抗性を有するものと考えられ、治療戦略を立てる上で Cu-ATSM イメージングが重要な意味を持つ可能性が示唆された。また同部位に近年非常に注目されているがん幹細胞の存在を示唆する結果を得た。



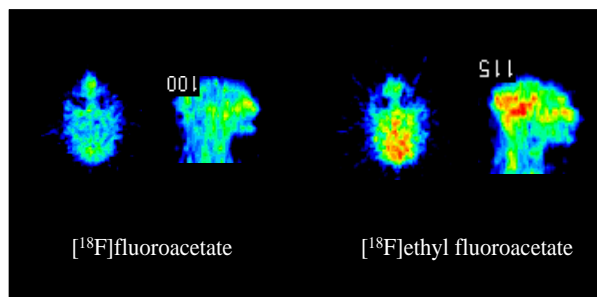
臨床成果

放射線医学総合研究所より [Cu-62] ジェネレータの供給を受け、Cu-ATSM の臨床検討を行った。がん診断については、多数症例を集積しその有用性を明らかにした。これと並行してミトコンドリア遺伝子障害による MELAS 患者における脳発作前後における Cu-ATSM の脳局所異常集積を世界で初めて見出し、ミトコンドリア障害の画像化に成功した。



画像解析、新規脳診断剤

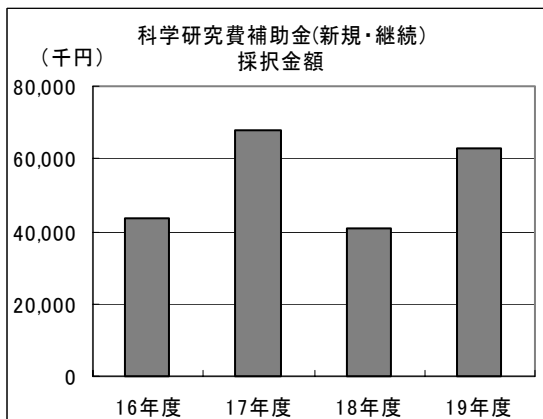
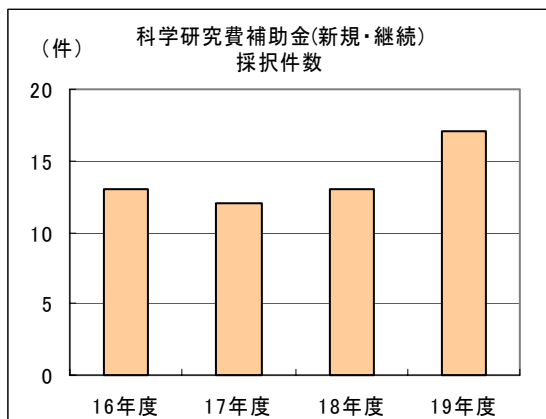
脳内好气的エネルギー代謝の根幹である酢酸代謝の画像化を目指し、汎用性の高い F-18 で標識され、かつ脳内移行性の高い脂溶性を付与した F-18 標識酢酸のエチルエステル体の合成と評価を行った。コモンマームセットにおいて F-18-酢酸エチルは F-18 酢酸に比較して速やかな脳内移行を示し、所期のドラッグデザインが有効であることが明らかとなった。



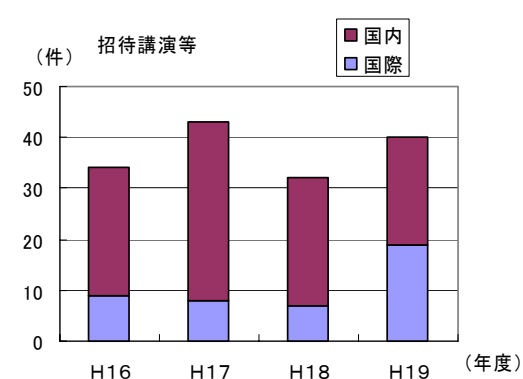
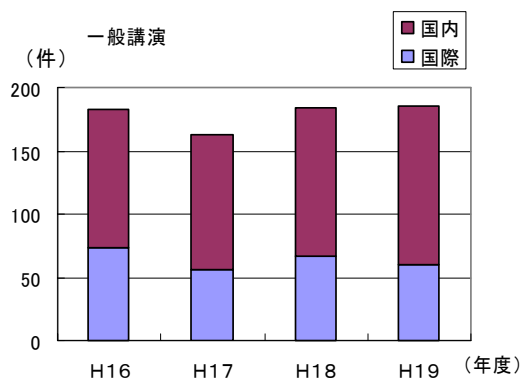
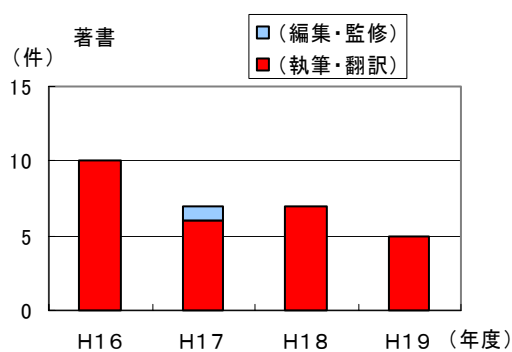
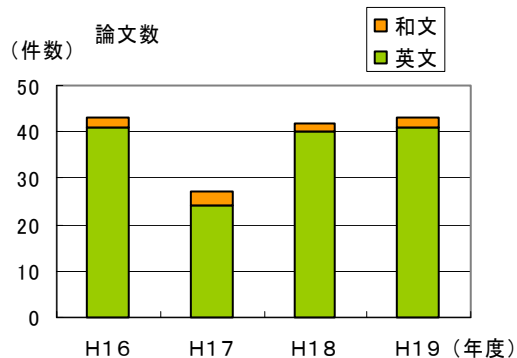
(高エネルギー医学研究センター資料より)

資料 4-2-3 当該分野の主な活動状況

科学研究費採択状況



研究業績発表数



(研究業績発表数のうち、平成19年度の数については集計途中の数である)

(事務局資料)

b) 「小項目 4」の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている。

(判断理由)

21世紀COEプログラム「生体画像医学の統合研究プログラム」に基づき、学長の強いリーダーシップの下、世界最高水準の研究教育拠点形成を推進した。その結果、放射線診断教育、生体画像医学研究の両分野で顕著な国際的役割を果たすと共に、PET診断に向けた多様な標識薬剤の開発・臨床応用、画像解析技術開発等の分野で、顕著な国際的成果を上げた。

小項目5「地域に根ざした新しい総合的、実践的な共同研究を目指す」の分析

a) 関連する中期計画の分析

計画 5-1「地域・学校と協働ですすめる地域の学校改革とそのための実践的な教育研究を行う。」に係る状況

(表：42-01)

学校改革への取組

地域の諸学校の教諭と本学教員とが「学校改革」に取組み、その成果を学術論文、実践研究福井ラウンドテーブルを通して全国に発信した【P10 資料 2-1-1】。

実践的な教育研究

附属学校園及び県内諸学校と実践的な教育研究に取組み、研究結果を紀要「教育実践研究」に公表し【資料 5-1-1】、平成 19 年の外部評価において、「教育現場との継続的な協働研究が行われている証拠である」と高く評価された【資料 5-1-2】。

資料 5-1-1 紀要「教育実践研究」

紀要「福井大学教育実践研究」は教育実践総合センターにおいて毎年 1 回発行しており、教育実践研究、教育臨床研究に関する論文・資料等の発表を行っている。

附属学校園及び県内諸学校と取組んだ実践的な教育研究成果例

福井大学教育実践研究 2007, 第32号, pp.17-26

原 著

科学技術体験合宿「体験サイエンス・サマーキャンプ」の実施と考察

福井大学教育地域科学部 浅 原 浩
福井大学教育地域科学部 佐分利 豊
福井大学医学部 藤 井 豊
坂井市立三田西小学校 西 田 昭 徳
福井大学教育地域科学部 伊 佐 公 男

平成18年8月に1泊2日の小中学生を対象とした科学技術体験合宿事業を行った。算数・数学、物理、化学、地学の4領域からトピックス的なテーマを取り上げ、実験と考察を通じた科学理解を深めることを目的として実施した。フィードバックアンケート(TA)として学部2、3年生が参加し、小中学生に対する実践的教育的効果についても活用した。実施内容に関して、参加者およびその保護者に対するアンケート調査を行い、事業評価も行った。

キーワード：サイエンスキャンプ、算数・数学、物理、化学、地学、小学生、中学生、ものづくり

1. はじめに
近年、青少年をはじめとする国民の「理科離れ」ものづくり離れが指摘されている。科学技術離れが指摘されている中、我が国は、科学技術の発展により、豊かな国民生活や社会経済の発展及び産業の国際競争力の向上を実現する「科学技術創造立国」を目指している。

2. 経緯
前述したような科学技術離れのうち、科学イベント類は、小学生から一般まで対象ではあるが、通常、結果として小学生とその保護者に限定される場合が多い。実施内容も書きを考へるものや科学的不思議を感じさせるテーマが中心となり、様々な分野のテーマを短期間で

福井大学教育実践研究 2005, 第30号, pp.39-50

原 著

小学校における歴史入門学習

福井大学教育地域科学部附属小学校 坂 垣 美 一
福井大学教育地域科学部 寺 尾 健 夫

本研究では、歴史学習入門期に当たる小学校中学年の歴史学習を支援する際に、子ども達に歴史認識を深めるための、「時間認識を深めるための3つの学習段階」と「高関心による歴史発見」という2つの方法を組み込んだ単元モデルを開発した。4年生社会科見学「今の生活、昔の生活」に、この単元モデルを適用した結果、子ども達は自分たちの地域の歴史に対して認識を深め、学習を進めていきながら歴史理解の方法を発見させることができた。この結果から、開発した単元モデルは歴史入門期における小学校中学年の歴史学習に有効なことが明らかになった。

キーワード：社会科、歴史学習、歴史認識、共同学習の構成主義、学習段階

1 はじめに
「1）子ども達にとって初めての『歴史』学習
おもしろい大人である地域には、古くから伝わる文化財や年中行事があり、また地域によっては古い道具が残されている。博物館に行けば、文化財や古い道具などがたくさん陳列されており、昔の様子が見えるようになっている。テレビでは時代劇や歴史関連の教養番組が放送されている。子ども達はそういったものから『歴史』を感じ、『歴史』に対して興味を抱いていく。『歴史』を「昔」とし、目標を2学年にまとめて示し、2年生で実現できるようにした。これによって、社会科歴史学習はより地域に密着した、弾力的展開ができるようになったのである。そこで今回、歴史学習を進めるに当たって、対象学年を4年生とし、特に「古くから残る暮らしに関する道具、それを使っていたころの暮らしの様子」、「地域に残る文化財や年中行事」に焦点を当てた学習を重点的に進めたい。歴史学習の入門期であるこの時期に育成すべき歴史理解の基礎的な態度や能力は、改めて『歴史』を

福井大学教育実践研究
Fukui Educational Research

— 第32号 —

目 次

教育実践総合センター 教育実践研究
福井県で取り組む実践的学習支援のコーディネーターとしての役割と実践的学習支援に関する実践的学習支援の事例について
「歴史」の理解から文化財・年中行事の活用を通して
「歴史」の理解から文化財・年中行事の活用を通して
「歴史」の理解から文化財・年中行事の活用を通して

17
27
37
47
57
67
77
87
97
107
117
127
137
147
157
167
177
187
197
207
217
227
237
247
257
267
277
287
297
307
317
327
337
347
357
367
377
387
397
407
417
427
437
447
457
467
477
487
497
507

(紀要「教育実践研究」より)

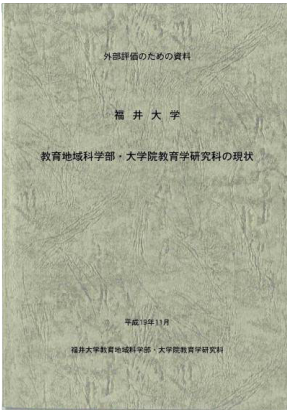
資料 5-1-2 外部委員による評価


福井大学 教育地域科学部・大学院教育学研究科外部評価委員会議事録
抜粋 (平成 19 年 12 月 21 日実施)

鷲山委員長
教育実践総合センターの紀要は素晴らしい。様々な活動が系統的に集約され、実践的な内容である。

上野委員
取り組みの具体から、教育実践総合センターに託されているミッションが伺える。中でも成果公表の場の提供、とりわけ研究紀要「教育実践研究」の発刊が代表的である。また「テクニカルレポート」の発行が、成果公表を推進する働きをしている。

(外部評価議事録より)





外部評価委員会の様子

2-56

研究 1
中項目 1
研究水準及び研究の成果等「計画 5-1」

教職大学院の設置

これらの研究実績【表 42-01】を基に教職大学院の設置を申請し許可された。その際、「福井大学方式」の学校を拠点とした新しい教師教育スタイルは、その独自性を高く評価された【資料 5-1-3,4】。

資料 5-1-3 学校改革・授業改革のための教師の専門的力量と協働実践力を培う大学院

教職開発専攻(教職大学院)設置の目的

変化の激しい21世紀の社会を生きる子どもたちが、よりよく自己実現するために、学校には多くのことが求められています。家庭、地域、学校の連携で地域の教育力を高める必要があります。とりわけ学校においては、教員の専門的力量の向上と協働研究が重要になります。そのために福井大学は、21世紀の学校教育を担う教員の専門的力量の開発を目的として、教職大学院を開設します。

5つの特徴

1. 今日の課題に焦点を当てた協働研究を支援します。
2. 15人の大学教員がチームでバックアップします。
3. 大学教員は幼・小・中・高・特別支援の学校現場へ出向きます。
4. 学校行事等に配慮した集中的な講座を開講します。
5. 全国の教職大学院や優れた実践とつながります。

教育課程の概要

- 学位**…………… 教職修士（専門職）
※新しい学位の授与
- 修業年限**…………… 原則として2年（1年を許可する場合もある）
- 必要修得単位**…………… 長期インターンシップ
共通科目、コース別選択科目
計45単位以上を取得すること
- 募集人員**…………… 入学定員 30名程度
現職教員（臨時的任用者を含む）
学部進学者
- 詳細**…………… 入学者選抜の詳細は、平成19年12月に発表予定

教育課程の特色

- **学校拠点の協働実践研究プロジェクト**
学校を拠点とし、学校が抱える課題に教員と研究者が協働して実践的な学校改革に取り組みます。
- **教職専門性の開発・発展を支援**
「実践力」「マネジメント力」「省察・研究能力」「理念と責任」の4つの軸で教育課程を構造化するとともに、世代交流のサイクルを新たに創り出していきます。
- **長期実践報告の作成**
修士論文は課しませんが、長期実践報告の作成と発表を行います。
- **1年間の長期インターンシップ**
学校の1年間のサイクルを経験し、授業づくり・学級づくり・生徒指導等を総体として実践的に学びます。
- **事例研究センターの共通科目**
「教育課程の編成・実施」「教科等の実践的な指導法」「生徒指導・教育相談」「学級経営・学校経営」「学校と教師の在り方」の5領域について、実践的なカンファレンス・事例研究を中心に学びます。
- **コース別選択科目**
「カリキュラム・授業改革」「成長・発達支援」「コミュニティとしての学校と教師の力量形成」の3つの系の中から1つを選択し、主題に沿って実践と研究を深めます。

教育課程の構成

教職専門性開発コース	スクールリーダー研修コーディネータ養成コース*	学年履修単位(目安)	
		1年次	2年次
長期インターンシップ(10単位)		10単位	0単位
共通科目(20単位)		14単位	6単位
コース別選択科目(15単位)		2単位	13単位
合計(45単位)		26単位	19単位

*入学前に連携協力校等において共同研究の経験を有するなど一定の条件を満たす者は、短期履修(1年)でも修了可とします。

- **授業科目例**
- **共通科目例**
 1. カリキュラムのデザインの実践事例研究(2単位)
 2. 授業づくりの長期実践事例研究 I、II(計4単位)
 3. 児童生徒の成長・発達支援の長期実践事例研究 I、II(計4単位)
 4. 学校協働組織マネジメント(2単位)
 5. 教師の実践的力量形成の課題と実践(2単位)
- **コース別選択科目例**
 1. カリキュラム・授業改革マネジメント 学校拠点長期協働実践プロジェクト(8単位)
 2. 児童生徒の成長・発達支援 学校拠点長期協働実践プロジェクト(8単位)
 3. コミュニティとしての学校と教師の力量形成 学校拠点長期協働実践プロジェクト(8単位)

※いずれの科目も3、4人の教員がチームで担当します。

(教職大学院パンフレット)

資料 5-1-4 実践的教育研究に関する外部評価委員の意見

国立大学法人は法人化後4年が経過したが、法人としての裁量は広がったものの、効率化係数と総人件費抑制政策によって大半の大学では、大学教員を削減せざるを得ない状況に追い込まれ、法人化の趣旨は生かされないままになっている。平成22年より次期中期計画への枠組みについては、文部科学省内で運営交付金のあり方についての連絡協議会をつくって検討が始まっている。このままいくと高等教育は、危機的である。それを乗り切る多くの知恵と提案を集約していかなければならない。

この点において福井大学教育地域科学部は、教員養成のあり方においても新課程の展開にしても、附属学校の活動にしても、今日の教育課題に応えた先駆的で模範的な在り方を示している。振り返ってみると「学校現場が大学であり大学院である」というメッセージは、福井大学教育地域科学部が全国に発した新しいパラダイムチェンジへの宣言であった。従来のアカデミズムからはストレートには出てこないこの発想は、実践的思考が学問の高さによって裏打ちされている本学部の6年間の実績と自信から生まれたもので、戦後60年を経過した教員養成教育において、私たちに最も必要とされている方向を的確に明示したものといえる。

(教育地域科学部資料)

計画 5-2 「地域の文化，住民生活，自治の向上に資する地域科学研究を行う。」に係る状況

(表：42-02)

地域活性化に貢献する研究

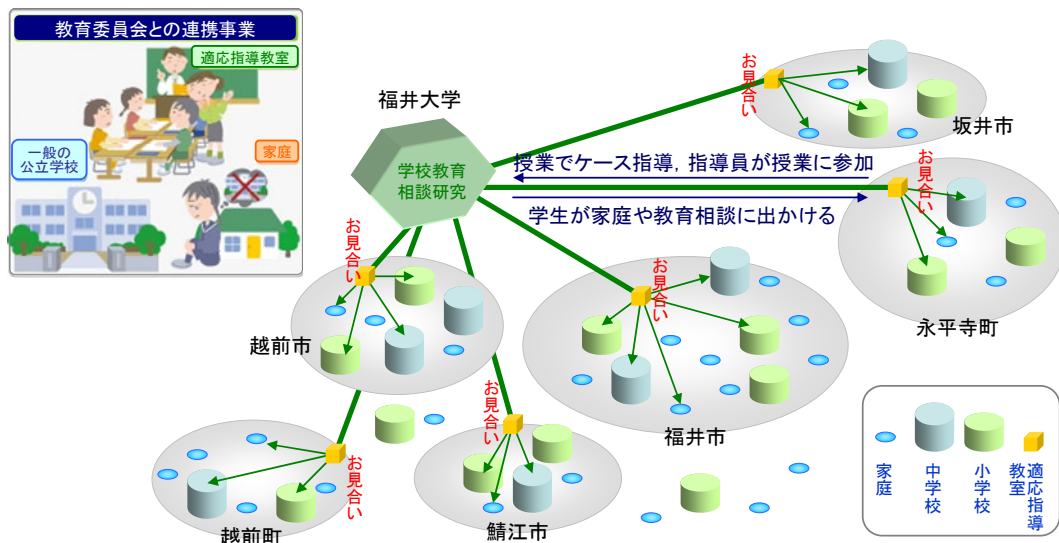
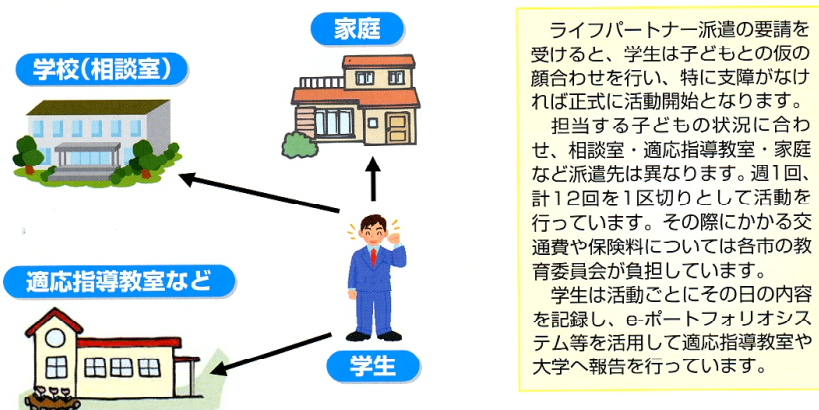
特色 G P 「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」の中心であり，教育臨床学的研究活動であるライフパートナー制度【資料 5-2-1,2】，県内諸機関との連携研究【資料 5-2-3】を展開している。

資料 5-2-1 特色 G P 「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」ライフパートナー事業の概要

ライフパートナー事業は，学生が不登校児の家庭や相談室等に出かけ，共に話し遊び学習の援助者になる活動である。

この活動は授業によってサポートされ，教育委員会や現職教員が参加したケース検討会を行っている。市町村教育委員会の連携の下で，各自治体からの諸経費等のサポートを得て，現在155名の学生が210名の不登校児と1年間活動を共にしている。

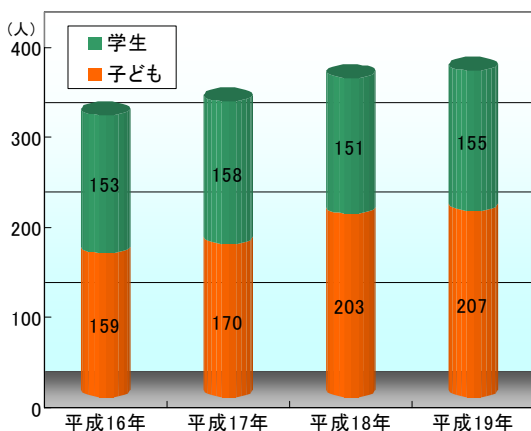
また，近年は不登校児ばかりでなく発達障害児にも支援活動を拡大している。さらに，相談室登校をしている生徒に対してインターネットを用いて授業を配信する活動を始めた。



(本学 H P 「特色ある教育活動等」及び「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト実施報告書」より)

資料 5-2-2 ライフパートナー事業の成果

ライフパートナー活動を利用した児童・生徒数及び本学学生数の推移

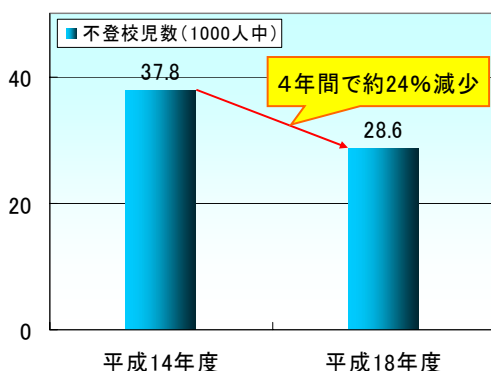


ライフパートナーの活動は、訪問先として家庭ばかりでなく、学校等の相談室をも対象としている。

近年は、不登校で家に閉じこもる子どもたちだけではなく、学校には登校できるが教室には入れない子どもたちも増え始めており、このような子どもたちに対しても、保護者と学校の要請を受けてライフパートナーを派遣している。

(「特色 G P 実績報告書 2003-2006」より)

福井市内の中学校における不登校児の推移



平成14年度に不登校だった福井市内の中学生は、1,000人当たり37.8人であったが、次年度以降徐々に減り、平成18年度は28.6人と4年間で約24%減少した。

教員や保護者には困難な「話しやすい身近な相談相手」の役割を学生が果たし、不登校児の増加を抑える大きな要因となっている。

また、学生たちもこの活動を通じて確実に専門的な力量を高めている。

(事務局資料)

ライフパートナー事業についての関係者の声

子どもに「こないだのお兄ちゃん今日も来るよ」と言うと、出迎えて待っているほど楽しみにしていたようです。おかげさまで夏休み明けから学校に行くようになりました。お世話になりました。(保護者)

子どもたちのコミュニケーション能力の発達という視点からも、学生の存在は重要だと思います。(小学校教諭)

始めの方はずっと私が話をしていましたが、徐々に私が話すことに興味を持ってくれて、楽しそうに笑うようになりました。途中からは「学校に行きたい!」という強い意思が伝わってきました。(学生)

教師になれば、大勢の生徒を対象に授業をすることになりますが、その前に子どもたちと一対一で向き合えたのは貴重な体験でした。(学生)

相談室登校の児童たちなのでストレスが多く、その発散として、身体を動かすことを望んでおり、いつもその相手をしてもらっています。時には委員会活動を一緒にしてもらったり、時間を延長して相手になってくれたり感謝してます。(小学校教頭)

(「平成18年度ライフパートナー活動報告書」より)

資料 5-2-3 県内諸機関との連携研究

福井県立歴史博物館と大学との連携（共同展示）

博物館との共同企画展示「箱ワンダーランド」『ピン展』「缶CAN展」を実施し、マスメディアに大きく取り上げられた。地域文化施設との継続的な協力関係の意義や、学生の関与が来館者に及ぼす効果など、大学と地域を結ぶアートマネジメント活動のありかたの可能性を示唆するものとして、展示の質も含め、外部の博物館関係者から高い評価を得た。

博物館来館者のコメント

展示会は学園祭風の泥臭さを思い浮かべながら出かけたが、研ぎ澄まされた美しい展示空間であった。学生も協力して足で集めた資料などをここまで取捨選択して全体を構成するのは、相当のエネルギーが必要で、さぞ難易度の高い作業だっただろうというのが第1印象。そして、そうしたプロセスこそが、「学び」という営みの興る瞬間瞬間の連続であるのだが。展示会の内容は、来館者が展示を見ながら、さまざまに想像する余地をたくさん残している構成だと感じた。「箱」がいつも何かのモノを入れて完成形になることが多いなか、この展示会も来館者がひとつひとつの箱を見ながら何かを考え、思い浮かべて、出来上がる。そのため学生によるギャラリートークもきっと意味深いものであったはず。

ハンズ・オン・プランニング代表：染川 香澄

（『箱・ワンダーランド 魅惑の紙箱展』実施報告書より）

「箱ワンダーランド」を紹介する新聞記事

**福井大生 県立博物館共同展
紙箱の魅力 多面的**

福井大生と県立歴史博物館との共同企画展示「箱ワンダーランド」が、17日、同博物館で開幕した。紙箱の魅力を多面的に紹介する。紙箱の歴史は、フランスで17世紀に発祥した。その後、ヨーロッパに広がり、日本では明治の頃に盛んになった。展示には、フランスで17世紀に発祥した紙箱の歴史、紙箱のルーツ、紙箱のデザイン、紙箱の機能、紙箱の再利用など、多岐にわたる内容が紹介されている。また、紙箱の魅力を伝えるためのワークショップも実施される。展示は、17日から21日まで、同博物館で開催される。



「箱ワンダーランド」を紹介する新聞記事の続き。紙箱の魅力を伝えるためのワークショップも実施される。展示は、17日から21日まで、同博物館で開催される。

（福井新聞 H16.7.18）

高大連携事業

平成 16 年 3 月に文部科学省からSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受けた福井県立藤島高校からの依頼により本学からも多くの教員が様々な事業に参加し、高校生達に直接指導・助言を行いました。その一つに藤島高校生物部への指導があり、本学教員の指導の下イチョウ精子の形成過程の観察に成功し、その成果を「イチョウの精子の観察」としてまとめ、第49回日本学生科学賞「内閣総理大臣賞」を受賞しました。

受賞者のコメント

『スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）事業での福井大学との高大連携で日本学生科学賞で最高の評価を受けることに繋がるのである。』よい研究をするには良い指導者に恵まれる」という格言めいた言葉があるが、私達にとって、前田先生という最高の指導者に恵まれたことが成功の鍵となったのである。』

（福井高教組教育研究会編 『生徒とともに』第38号（2006.11）より）

（福井大学広報紙「CAMPUS EXPRESS Vol.10」）

地域環境に関する研究

豪雪・豪雨災害，自然環境，地下水やごみ処理などの住環境研究【資料5-2-4】を実施するほか，まちづくりに関する地方自治体との共同研究を実施した【資料5-2-5】。

研究の成果

これらを始めとする研究成果は，それぞれの関係者から高い評価を得，SS 2 件，S 7 件として結実した【表 42-02】。

資料 5-2-4 住環境に関する研究

南越前町の夜叉ヶ池に生息する「ヤシヤゲンゴロウ」の保護と池周辺の環境保全

地域の住環境の保全等に関する専門委員会に，本学の教員が学識経験者の立場で参画している。環境省や県・市町村等と連携し，原因解明に向けての生態調査や今後の対策等，環境保全のための取組を行っている。



原因解明向け調査へ

南越前町の夜叉ヶ池に生息する希少生物ヤシヤゲンゴロウの保護と池周辺の環境保全を目指す専門委員会は五日、同町の今庄保健センターで開かれた。委員から個体数が激減している現状が報告され、原因解明へ向け本格的な生態調査に乗り出すことなどを決めた。

井大助教の学識経験者とボランティアパトロール員、環境省や同町担当者ら委員六人が出席。生態数や環境調査の報告、来年度の事業計画などを協議した。

福井森林管理署が九月八日、一日の枠内で二時間開閉にカウントするコイと話し合っている。

11年前の13%希少生物ピンチ

ヤシヤゲンゴロウ激減

南越前町の夜叉ヶ池に生息する希少生物ヤシヤゲンゴロウの保護と池周辺の環境保全を目指す専門委員会は五日、同町の今庄保健センターで開かれた。委員から個体数が激減している現状が報告され、原因解明へ向け本格的な生態調査に乗り出すことなどを決めた。

井大助教の学識経験者とボランティアパトロール員、環境省や同町担当者ら委員六人が出席。生態数や環境調査の報告、来年度の事業計画などを協議した。

福井森林管理署が九月八日、一日の枠内で二時間開閉にカウントするコイと話し合っている。

(福井新聞 H18.12.6)

平成 16 年度科学研究費補助金（特別研究促進費（1））による洪水被害調査




写真4：土石と樹木を吐き出した小渓谷。吐き出された土石により護岸ブロックは破壊され、樹木は流木となって、下流の家屋や植を破壊した。今回の豪雨では、大規模斜面崩壊は発生しなかった。（池田町金見谷）

写真5：鉄砲水により運搬され、家屋の中に入り込んだ土石。土石の厚さは2mを超える。（美山町蔵作）

写真6：足羽川が山地区から平野部に出る所で氾濫し、家屋の倉庫に残した厚さ50cm程度の砂層。（福井市前波町）

写真7：足羽川の水位が増し、数カ所でオーバーフローが始まった際の空中写真。オーバーフローが始まって30分後に写真右下側の堤防が決壊した。（福井市春日1丁目）（朝日新聞社提供）

写真8：福井市市街地では、場所によっては1m50cm程度の深さに冠水した。（福井市月見4丁目）

写真9：JR北陸線の下にあった地下道を通して、泥水は東から西へと移動していった。写真は、水が引いた後に残された泥とゴミ。（福井市春日町）






自然災害，環境行政に関わる専門的立場からの貢献が顕著であり，福井豪雨の直後には，平成 16 年度科学研究費補助金（特別研究促進費（1））を得て，洪水被害の調査を実施し，日本地質学会 News に速報として掲載しており，今後の防災対策にとって貴重なデータを提供した。

（「日本地質学会 News Vol.7 8,P.5-6」より）

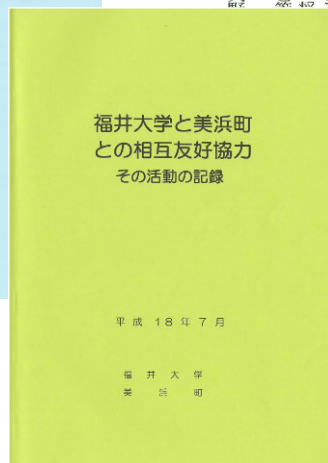
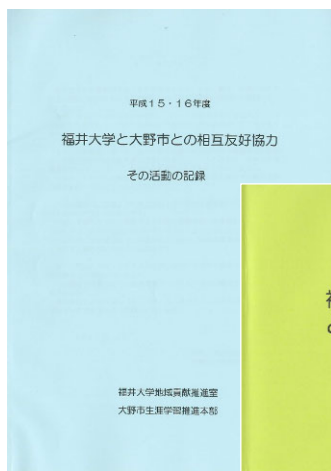
研究 1

中項目 1 研究水準及び研究の成果等「計画 5-2」

2-61

資料 5-2-5 地方自治体との共同研究

協定に係る連携事業	
大野市	美浜町
歴史的建造物の実態把握と保存活用計画の検討	「異なる水質への入浴が保温、保湿効果及び循環機能に及ぼす影響と気分の変化の違い」についての調査
雪と共生するまちづくり	へしこの製法の研究
住民参画のまちづくり	活動報告会・記念講演会（講演会）
総合型地域スポーツクラブ「みんすぼクラブ」の育成・支援	美浜町地域公共交通会議
NPO支援事業	協働のまちづくり検討委員会
公開講座の実施・講師派遣	美しい水を守る審議会
広報紙とインターネットの双方を活用した効果的な情報発信の研究	美浜町環境基本計画策定委員会
	美浜町エネルギー環境教育推進委員会
行政評価導入の検討	美浜中学校設計プロポーザル審査委員会・美浜中学校建設委員会
大野市地下水総合管理計画策定事業	美浜町国民保護協議会
寝たきり予防のための健康教室	美浜町介護保険運営協議会
商店街活性化対策検討会議	豊かな活気あふれるまちづくりを目指した美浜の温浴・産業振興施設の研究
学生ボランティア派遣	景観づくり検討委員会
大野市の市民活動への学生参加に対する単位授与制度	名勝三方五湖保存管理検討委員会(若狭町と合同)
福祉防災コミュニティ活動促進事業	美浜・五木ひろしまラソン大会への医師派遣
福祉コミュニティ調査事業	
森づくりの実践活動と森林機能の体感事業	



福井大学と大野市の連携事業
「歴史的建造物の実態把握と保存活用計画の検討」

大野市は、福井本と
福大と連携
田村家(武家)調査を終了
保存活用方法提言へ

大野市は、福井本と福大と連携。歴史的建造物の調査を終了し、保存活用方法の提言を行っている。武家屋敷の田村家(武家)の調査は、今年九月十四、十五日(土)で、建築物実地調査を終了し、調査結果の整理を行っている。調査を進めている詳細を調べ、保存活用方針を材料にする。田村家は、大野市にある歴史的建造物で、武家屋敷の田村家(武家)の調査を終了し、保存活用方法の提言を行っている。

大野市は、福井本と福大と連携。歴史的建造物の調査を終了し、保存活用方法の提言を行っている。武家屋敷の田村家(武家)の調査は、今年九月十四、十五日(土)で、建築物実地調査を終了し、調査結果の整理を行っている。調査を進めている詳細を調べ、保存活用方針を材料にする。田村家は、大野市にある歴史的建造物で、武家屋敷の田村家(武家)の調査を終了し、保存活用方法の提言を行っている。

建物の詳細を調べる学生たち
＝大野市の武家屋敷田村家で

(日刊県民福井 H16.11.6)

福井大学と大野市の連携事業「雪と共生するまちづくり」



上：武家屋敷で建築物実地調査を実施する様子を伝える新聞。本学教員と大学院を含む学生達が調査にあたり、将来的な保存方針を策定する材料にする。

下：「雪と共生するまちづくり」事業の「スノー・パートナーシップ」の様子。地元住民と交流し、雪かきのノウハウを教えてもらいながら一緒に雪かきをすした。(大野市太田地区)

(事務局資料)

計画 5-3 「学校教育や社会基盤に関して、共同研究等を通じ、地域社会に成果を還元する。」に係る状況

教育実践共同研究と地域社会への成果の還元

採択されたG Pの活動を基点として、地域社会・教育機関・教育委員会との教育実践共同研究事業等を実施し、不登校や教員の実践力形成、地域の活性化等の研究成果の地域還元に取り組んだ【資料 5-3-1～3, P58,59 資料 5-2-1,2, P11 資料 2-1-2】。

また、地方自治体等と連携し、地域・住環境保全、災害等に関する共同研究を実施した【P61,62 資料 5-2-4,5】。

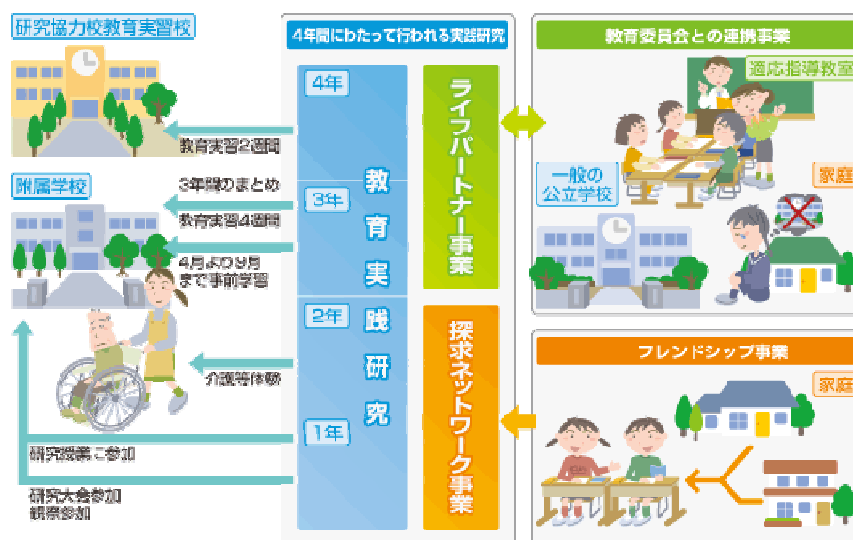
資料 5-3-1 特色G P「地域と協働する実践的教員養成プロジェクト」について

平成 15 年度に文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色G P）」に採択された（教員養成系学部の中で教員養成をテーマにしたプログラムでは唯一の採択）この取組は、優秀な教育を実践している大学を国が指定し、他校のモデルとするものであり、たえず子どもに関わり合いながら、学問探究することにより実践研究を進めている。

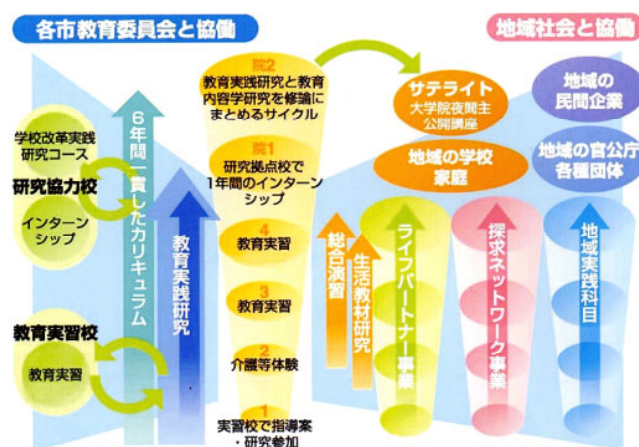
授業作りの実践研究（教育実習）：4年間継続的に実施

教育相談・生徒指導にかかわる実践研究（ライフパートナー）：地域の学校や家庭に出向いて不登校等の子どもと共に活動

探究ネットワーク：子どもの様々な主体的な学習活動を援助

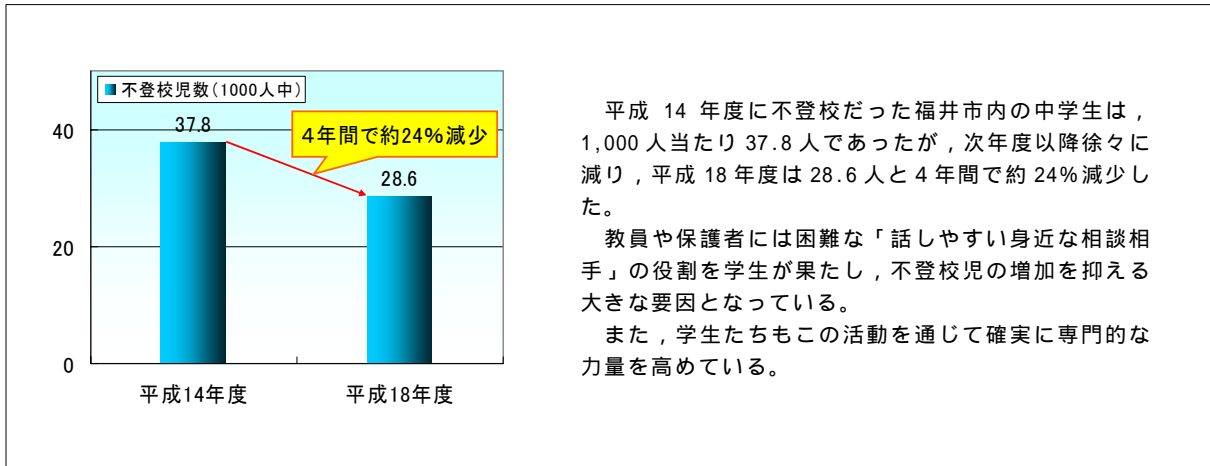


（本学H P「特色ある大学教育支援プログラム」より）



（特色G P実施報告書より）

資料 5-3-2 福井市内の中学校における不登校児の推移（ライフパートナー事業）



平成 14 年度に不登校だった福井市内の中学生は、1,000 人当たり 37.8 人であったが、次年度以降徐々に減り、平成 18 年度は 28.6 人と 4 年間で約 24% 減少した。

教員や保護者には困難な「話しやすい身近な相談相手」の役割を学生が果たし、不登校児の増加を抑える大きな要因となっている。

また、学生たちもこの活動を通じて確実に専門的な力量を高めている。

(事務局資料)

資料 5-3-3 探求ネットワーク事業の概要

探求ネットワークは、子どもの主体的な学習活動を学生が援助する活動で、隔週土曜日に 300 名の子どもが大学に集まり、120 名の学生と 1 年間にわたって活動が続ける。学生は、授業の中で活動を企画し準備を行い、その成果として学生と教員による発表の場を設け、他大学を招いた公開討論会を毎年行っている。

この探求ネットワークでは、「1つのテーマを通して、自分で考え、実行する力を養う」という目標を掲げ、継続した活動を実施している。その継続した活動を行う中で、「反省や経験を次に生かしていく力をつける」というねらいを持っている。

共に試行錯誤しながら活動を展開していく探求ネットワークの活動は、子どもにもスタッフにも大きな学びの場であり、子ども達との関わりの中で、学生自身も日々探求し、成長している。

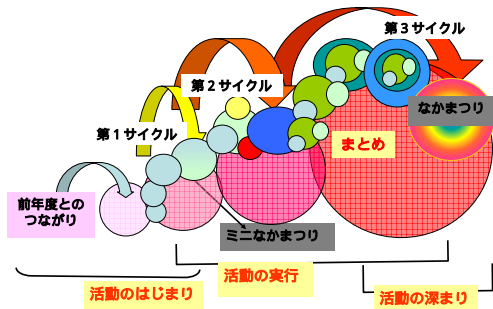
探求ネットワーク 始まりました!

教育地域科学部3年 吉田千晶・一花彰浩

私たち福井大学探求ネットワークでは、大学生スタッフと福井市内の子どもたちが文部科学省フレンドシップ事業の一環として毎月第2・4土曜日に活動しています。今年で12年目に突入り、9つのテーマごとのブロックで活動しています。ここでは、各ブロックがどのような活動を行っているか紹介します。

- それいけ!! 福井探検7ブロック**
探求を中心としたキャンプ活動やネイチャージームをします。
- 気球ふっく**
自分たちで気球を作って飛ばします。夏キャンプでは気球に乗ったります。
- ナチュラルクッキング パラダイズブロック**
キャンプに出かけて、火をおこしたり、飯盒炊飯をします。
- ふれあいフレンドクラブ**
特殊学校や養護学校に通っている発達障害のある子どもと活動しています。昨年度はみんなの前でよさを発表しました。
- なごもくブロック**
みんなで協力しながら料理を作っていて、みんなに食べてもらいます。
- 福井まちをめぐり探検7ブロック**
福井の街を探検して、子どもが考えた面白いものを発表します。
- 活動を始めよう!にあたって...**
私たちは8月からの本格的な活動の指導にあたり、毎日のように余力を重ねています。一人一人のスタッフが子どもに対して熱い思いを持っているので、話し合いも自然なものになります。ああでもない、こうでもないといった話し合いは何度も繰り返して私たちは毎日の活動を作り上げているのです。
- また、ブロックのことでなく、全体の運営もスタッフで行っています。なごまつりなどの企画立案、お金の管理、新聞社やテレビ局などマスコミに活動を伝える仕事、子ども向けの雑誌の編集・発行など、様々な仕事をしています。**
- なごまつり**
自分たちで絵をすいて、うちわや灯笼などの作品をつくります。
- わくわくキャンプ工房**
ネイチャークラフトを中心として、キャンプなどでの活動をします。
- 人形げきブロック**
子どもたちが自分でお話を書く。人形を使ってみんなの前でお演じます。

探求ネットワークの1年間の活動展開



(基礎資料及び広報紙「CAMPUS EXPRESS Vol.13」より)

地域の産学官連携と産業界への成果の還元

地方自治体及び経済団体との連携・協力に基づく、いわゆる「福井方式」による産学官連携プロジェクト【資料 5-3-4,5】、地域との連携によるインキュベーションラボファクトリーにより、ものづくりの事業化を推進した【資料 5-3-6】。

中でもファイバーアメニティー研究【P13 資料 2-2-1】、原子力・エネルギー安全工学研究【P15 資料 2-2-4】の分野では、産学官連携を基盤とした共同研究を展開し、地域産業に成果を還元した。

高校教員や技術者等を対象とする高度技術の研修会【資料 5-3-7】、シーズ発表会、F U N T E C フォーラム等を開催し、産業界・地域社会への新技術紹介を行った【P27,28 資料 2-4-9,10】。

資料 5-3-4 本学の外部資金獲得に関する新聞記事

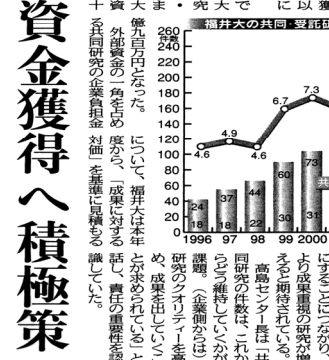
本学の外部資金獲得へ向けての積極的な取組は、新聞等にも取り上げられ高い評価を受けている。特に、共同・受託研究の取組は「福井方式」として県外からも注目されている。

福井方式とは？
大学とふくい産業支援センターが緊密に連携し、責任企業を決めて事業化までつなげる方式

二〇〇四年四月の法人定機に、福井大が企業と共同で進める研究件数が倍々増加している。〇三年度の年間研究件数は九十九件に達し、法人化された前の〇三年度の編入前の九十七件にほぼ等しい。企業がサポートしている研究件数は、今年度は企業研究が五件に達していることが確認された。

福井大

福井大は法人化と同時に、順位を争う「外部資金」の獲得に五年度（〇一年）に力を入れている。特に、企業との共同研究に力を入れている。五年度（〇一年）に共同研究件数は九十七件に達し、法人化された前の九十七件にほぼ等しい。企業がサポートしている研究件数は、今年度は企業研究が五件に達していることが確認された。



外部資金獲得へ積極策

産学研究、2年で倍増

産学研究は法人化と同時に、順位を争う「外部資金」の獲得に五年度（〇一年）に力を入れている。特に、企業との共同研究に力を入れている。五年度（〇一年）に共同研究件数は九十七件に達し、法人化された前の九十七件にほぼ等しい。企業がサポートしている研究件数は、今年度は企業研究が五件に達していることが確認された。

(日刊県民福井 H18.4.19)

県内、産学官連携進む

大学、高専240件 目標上回る

県が設けている産学官連携の取組をより強化。年度別の産学官連携の取組は、〇三年度（〇一年）に産学官連携の取組は九十九件に達し、法人化された前の九十七件にほぼ等しい。企業がサポートしている研究件数は、今年度は企業研究が五件に達していることが確認された。

福井方式、高い評価

福井方式は、企業と大学が緊密に連携し、責任企業を決めて事業化までつなげる方式。この方式は、産学官連携の取組をより強化し、地域産業に成果を還元している。

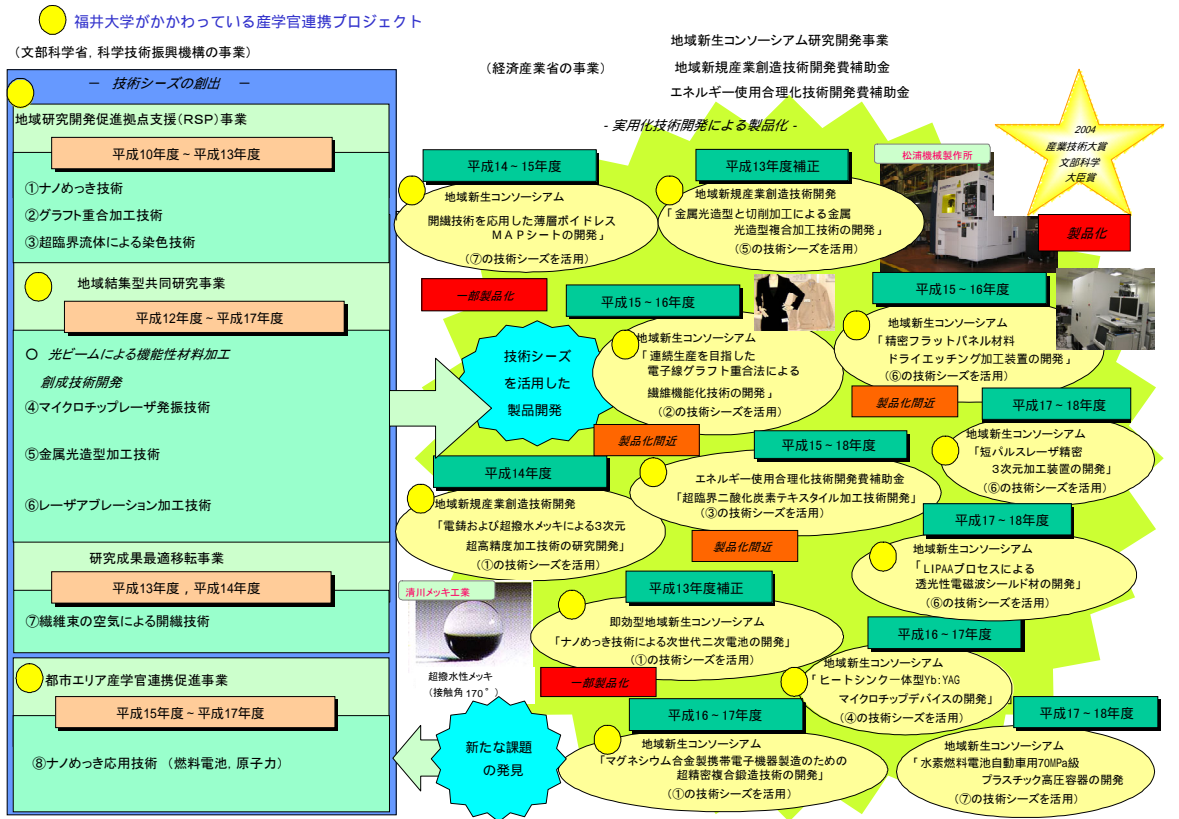
県内、産学官連携進む

産学官連携の取組は、企業と大学が緊密に連携し、責任企業を決めて事業化までつなげる方式。この方式は、産学官連携の取組をより強化し、地域産業に成果を還元している。

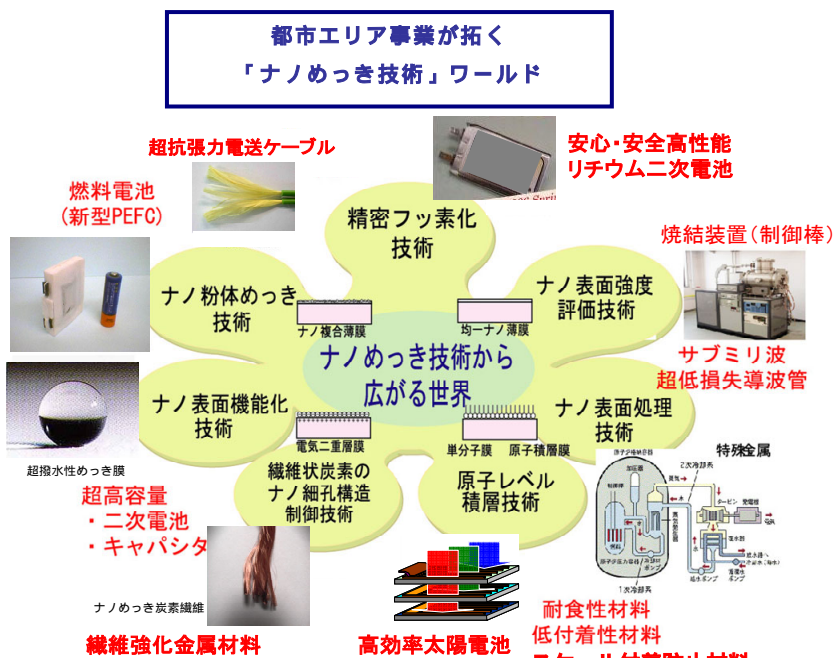
研究 1
中項目 1 研究水準及び研究の成果等「計画 5-3」

(福井新聞 19.1.11)

資料 5-3-5 産学官連携プロジェクト研究



研究成果例：ナノめっき技術が創出するエネルギーデバイス

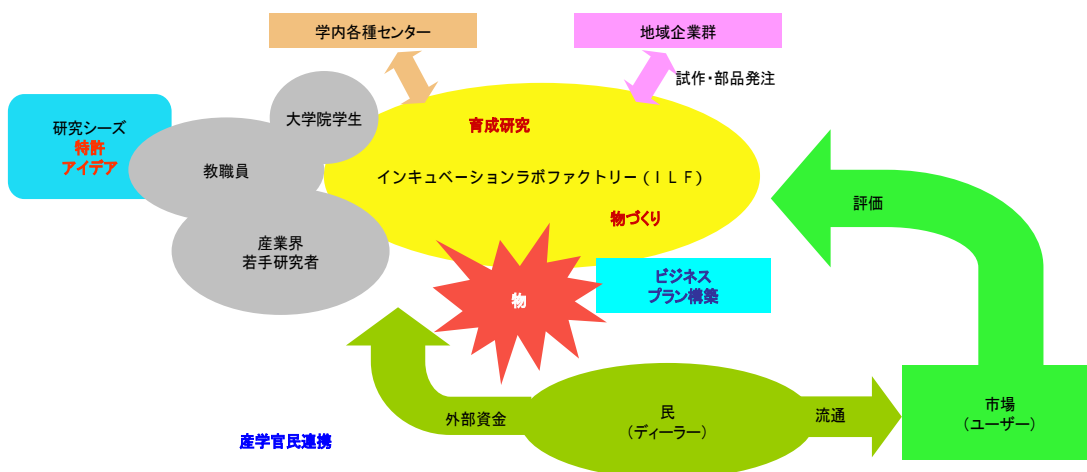


(産学官連携本部資料)

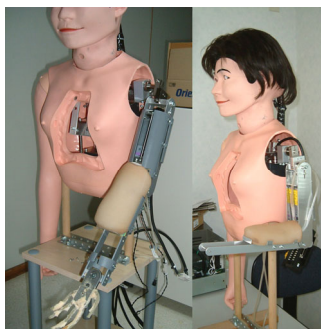
資料 5-3-6 インキュベーションラボファクトリーでの実践的ものづくり研究

インキュベーションラボファクトリーの概要

インキュベーションラボファクトリーでは、大学が保有するシーズ（特許，研究シーズ集記載等）を産・学・官・民が連携する形で育成研究し，成果の技術移転を意識した「ものづくり」を行っている。また，ビジネスプラン構築の場（民学連携）ともなり，技術者経営マネージャー育成プログラムの中で「スキルアップの場」としての機能も果たしている。



インキュベーションラボファクトリー(ILF)における活動



本学が持つ研究成果・ノウハウの技術移転を促進するため，独自に試作品を製作し，試し販売を経験してユーザの評価を得るシステムを構築している。地域の企業人材からなる匠人材コンソーシアムを結成し，試作品製造や試し販売の実践時の活動を支援するなど，実践的な経験を積む場を提供している。

(事務局資料)

資料 5-3-7 高度技術者研修の実施

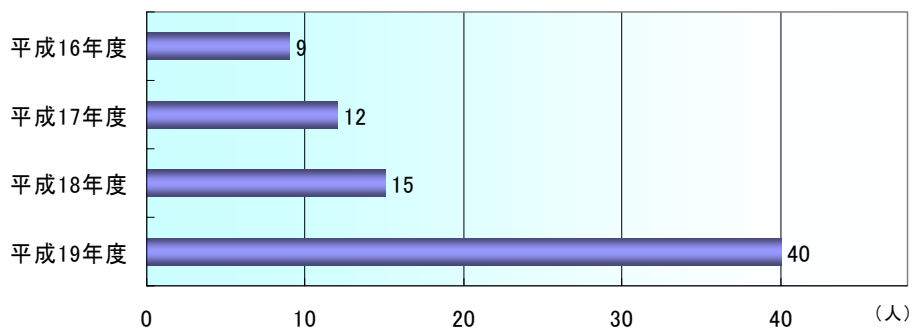
民間機関等の技術者及び研究者を対象に，高度な専門的技術を習得させるとともに，創造性及び先見性に富む人材の育成に寄与することを目的として，毎年実施している。

高度技術者研修実施一覧（平成 16～19 年度）

年度	研修名	学科等	担当教員
16	コンピュータ・ネットワークとネットワークセキュリティの最新技術	工学部 知能システム工学専攻	小倉 久和
17	将来のユビキタス社会に向けた高度情報通信技術	工学部 情報・メディア工学科	高橋 謙三
18	最先端工作機械による高度加工技術	工学研究科 機械工学専攻	白石 光信
19	業務発注者側の立場にある技術者のための建築物耐震診断・耐震改修計画技術	工学研究科 建築建設工学専攻	小林 克己



高度技術者研修受講者の推移



（事務局資料）

計画 5-4 「特許等の技術移転や技術相談・指導を積極的に行う。」に係る状況

支援体制強化と技術移転推進の取組

知的財産本部及び地域共同研究センターにおいて専任コーディネータ等を採用し、支援体制を強化した。これにより、マッチング活動の推進、企業等からの技術相談対応体制の整備、シーズ発表会開催等、技術移転推進の取組を実施し、技術相談・特許出願件数等増加の成果を得た【P27 資料 2-4-9, P35 資料 3-4-1, 資料 5-4-1, 2】。

資料 5-4-1 技術相談による産学官連携の推進について

対応した技術相談 1 件につき 1 ポイントを付与し、また、シーズ発表会、展示会などに参加した教員にもポイントが付与する「産学官連携活動ポイント制」を平成17年度から導入しており、平成19年11月現在、計436件の相談・指導を実施している。

積算ポイント数に応じた研究費を教員ヘインセンティブとして還元することにより、技術相談や産学官連携に関わる教員にとって良い刺激となり、また、企業と大学との連携がより強化され、共同研究・受託研究の増加にも大いに貢献した。

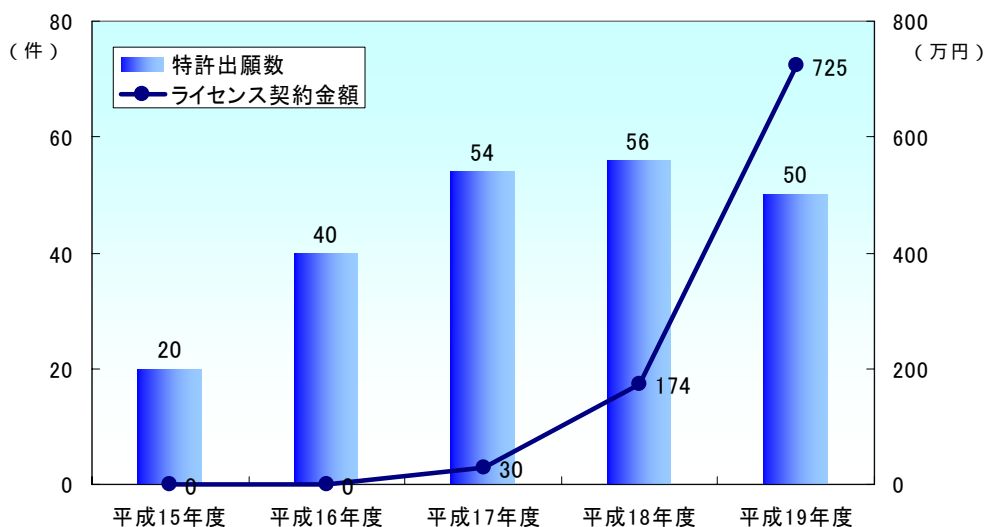
年度別技術相談件数一覧

年度	件数
平成 15 年度	105
平成 16 年度	127
平成 17 年度	174
平成 18 年度	163
平成 19 年度	169

(産学官連携本部資料)

資料 5-4-2 特許出願数等の推移

法人化後、「知的財産本部」を設置して、知的財産戦略の企画立案、取得マネジメント、知的財産登録・契約・管理、法令遵守の指導、知的財産評価・管理、技術移転、契約交渉等の取組を積極的に推進している。



(「福井大学総合データベースシステム」より)

新規性に関するプレサーチ

特許情報システムの活用による教員研究の新規性に関するプレサーチを行うとともに、学長裁量経費による学内競争的研究費申請課題について、コーディネータが技術移転指導等を行う体制を構築した【資料 5-4-3】。

資料 5-4-3 特許情報検索システムを活用した新規性のプレサーチ

学長裁量経費による学内競争的研究費申請書に「研究情報・特許情報検索依頼書」を添付させ、知的財産本部コーディネータが新規性のプレサーチを行い採択選考の参考とした。採択の有無に関わらず新規性の検索結果は研究者にフィードバックされ、以降の研究の参考とした。

また、採択研究の成果発表時においても、技術移転に係る指導等を行う体制とした。

サービス内容

N R I サイバーパテントデスクなどの特許情報検索ソフトを使用し、研究課題の調査に必要な特許情報検索を支援する。

キーワードを用いた検索だけでなく、調査したい研究課題を普通の文章で入力して検索できる「概念検索」という機能を用いると、研究課題に関連する特許の情報を得ることができる。

関連する特許があれば、その特許の公開情報を提供する。

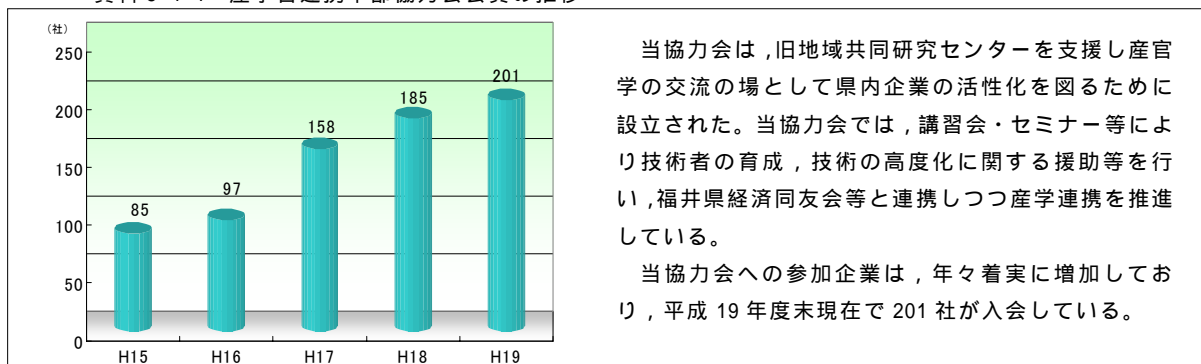
研究情報・特許情報検索依頼書		* 整理番号 H 2 0 -
氏 名		
所属・職名		
検索依頼分野		
分野の細目	(科研費申請書類の細目等)	
検索対象題目 (平易に)	(研究題目)	
内 容 (平易に)	1 背景 2 従来技術等 3 課題(問題点) 4 目的 5 構成・機能(従来技術との違いを明確に)	
要 旨 (平易に)		
キーワード (5 個程度)	(例：腐食(酸化+さび+磨耗+材料劣化)) ・ ・ ・ ・ ・	
特に検索を希望する事項	(現時点では、未発表の研究成果のみ)	
作成年月日	平成 年 月 日	
* 検索結果 (関連特許)		

(事務局資料)

技術移転や技術相談の推進

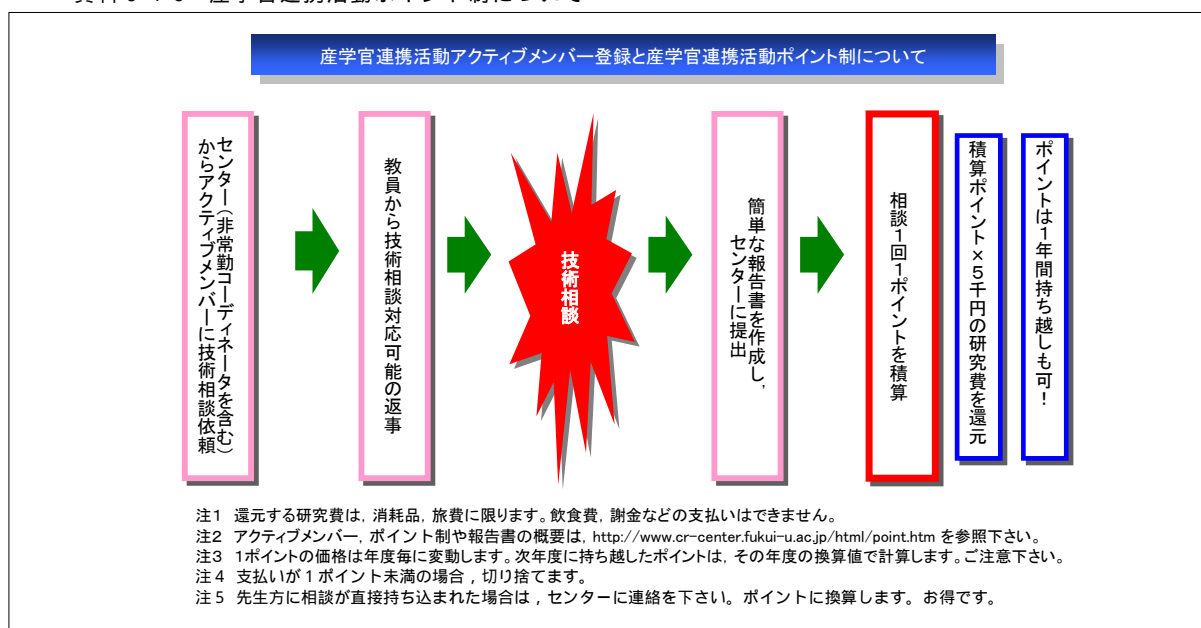
企業協力会組織の整備や研究費還元のポイント制導入により、技術移転や技術相談の推進を図った【資料 5-4-4,5】。また、平成 19 年度に産学官連携本部を設置し体制強化を図った【資料 5-4-6, P24 資料 2-4-3】。

資料 5-4-4 産学官連携本部協力会会員の推移



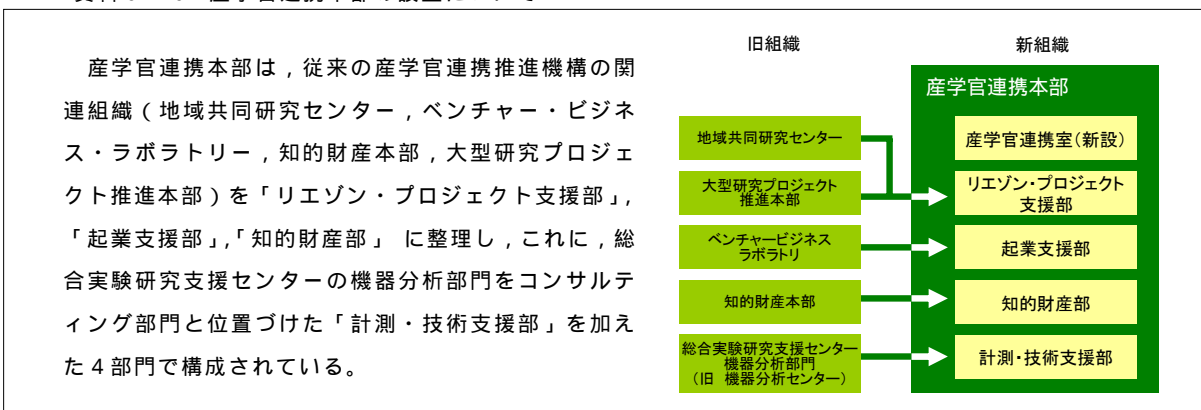
(産学官連携本部資料「協会会員数調べ」より)

資料 5-4-5 産学官連携活動ポイント制について



(産学官連携本部HP「産学官連携活動ポイント制のお知らせ」より)

資料 5-4-6 産学官連携本部の設置について



(事務局資料)

計画 5-5 「地域、自治体等との連携を進め、地域住民の健康増進、疾患の予防と克服を図る。」に係る状況

公開講座等による健康増進等の啓発活動

自治体等の開催希望に対応し、医療の現状や疾病の予防策に関する公開講座、実技を取入れた公開講座、最新の医療情報を専門的立場から説明する講演会等を、大学祭、保育園、公民館等を会場とし多様な層を対象として実施した【資料 5-5-1,2】。

附属病院と地域のラジオ放送局が連携し、毎週本学診療科医師が医療について分かりやすく解説する番組を放送して地域住民の健康増進に寄与している【資料 5-5-3】。

資料 5-5-1 医学関係の公開講座

平成 17 年度 医学部公開講座

健康に関する様々な公開講座・医学講座を開催し、多くの参加者を集めている。講演後の質疑応答も活発で、住民の関心の高さを示している。

また、県との連携によるライフアカデミー講座や地域や団体等が主催する講座にも多くの講師を派遣し、地域住民の健康増進に寄与している。



実施内容		開催日	会場
公開講座	「タバコ喫煙の科学～喫煙の誘惑～」	5月28日(土)	福井大学(文京キャンパス) * 大学祭
公開講座 (医学部講演会)	(1)こころの健康を保つために (2)高齢者における心臓と血管の病気を考える」	7月16日(土)	福井大学(松岡キャンパス)
公開講座	「中高年女性のための健康増進講座」	8月5日(金) 8月12日(金)	春江町 中央区ふれあい会館
公開講座	「食育について」	8月24日(水)	東安居公民館
公開講座	「子どもの生活習慣と健康について」	8月27日(土)	花園保育園
公開講座	「子どもの健康について」	9月17日(土)	みどり幼稚園
公開講座	「中高年女性のための健康増進講座」	9月2日(金) 9月16日(金)	勝山市 大渡地区集落改善センター
公開講座	「中高年女性のための健康増進講座」	9月21日(水) 10月19日(水)	福井工業団地追分町公民館
公開講座	「子どもの食生活と健康のかかわりについて」	9月30日(金)	文殊公民館
公開講座	「食物アレルギー・子どもの生活習慣病」 他	10月4日(火)	三谷館保育園
公開講座	「中高年女性のための健康増進講座」	10月12日(水) 11月16日(水)	武生市村国町 村国コミュニティセンター
高校生のための医学講座	「医学科が望む受験生の資質」 「そばにいることの力」	10月30日(日) 10月30日(日)	福井大学(松岡キャンパス) * 大学祭
市民のための医学講座	「よく寝る三つ子の魂は百まで？ ～脳の発達と学習そして睡眠～」 「癌がヒトを殺すまで」	10月30日(日)	福井大学(松岡キャンパス) * 大学祭

(事務局資料)

資料 5-5-2 実技を取入れた公開講座例

2007年度福井大学公開講座 福井ライフ・アカデミー講座
女性のための健康増進講座
 7月から12月まで随時開催! グループでお申込みください

ごあんない

女性のライフサイクル、すなわち思春期・成熟期・更年期・老年期における生涯の健康は、女性ホルモンの状態に大きく左右されています。加えて、日本人女性の近年のライフスタイルの変化により、女性の病気や悩みも変化しています。特に乳がんについては、現在、女性のがん患者の第1位であり、今後ますます増加することが予測されています。乳癌予防は自分から低いです。そこで、女性が一生を通じて健康でいられるとした生活を送るために、女性の身体やホルモンについて、また、女性特有の悩みのある乳がん、子宮がん検診を受けることの重要性、生活習慣病の予防などに対する知識、技術を分かりやすく身につけてもらうことを目的とした健康増進講座を開催しますので、ぜひご参加ください。

【対象】 女性のグループ(1グループ15-30名程度でお申込みください)
 【開催期間】 平成19年7月-12月 (都合の良い日は打合わせの上、調整します。)
 【開催場所】 地区の公民館や集会所等 (ご要望に応じて、こちらから伺います)
 【受講料】 無料
 ただし、資料代(費用)としてお一人 300円が必要です。
 【申し込み先】
 福井大学医学部看護学科 母子看護学・助産学教室
 電 話:0776-61-3111(内線2656)
 FAX:0776-61-8167

参加者のアンケート結果

この公開講座の内容はいかがでしたか?

あなたは、この公開講座にどの程度満足されましたか?

アンチエイジング運動実践 無料講座
あなたの「筋肉と脳」を目覚めさせて、健やかな日常生活を手に入れよう!!

中高齢者に多発している転倒事故などは、骨密度の低下と筋での運動能力の低下により起こっていると考えられます。健やかな日常生活をおくるための、適切な量の運動と、筋活動を認識した脳とのコミュニケーション活動をあわせた各様の基礎的運動実践を、下記の日程で全4回8週間に行います。

【日時】 第1回…平成18年2月8日(水)10:00-12:00
 第2回… 2月15日(水)10:00-12:00
 第3回… 2月22日(水)10:00-12:00
 第4回… 3月1日(水)10:00-12:00

【場 所】 福井大学アカデミーホール(福井市文京3-9-1)

【対 象】 60歳以上の方 10名 (ただし、第4回出席できる方で、「中高齢者の運動実践方法」についての研究にご協力いただける方)

【受講料】 無 料

【講 師】 吉澤 正字(福井大学地域科学部 芸術・保健体育教育課程 教授)
 西島 古典(大阪教育大学教育学部 教授)

【その他】 運動のできる服装・靴をご準備下さい。

申込・申し込み詳細の請求先
 福井大学 地域保健実践 地域連携係
 〒910-8501 福井市文京 3-9-1
 TEL 0776(27)8060 (直通)
 FAX 0776(27)8878
 MAIL kaho@pec.fukui-u.ac.jp

申込期間 平成18年2月8日(月)
 ※先着順受付(定員に達し次第の受付です。)
 ※インターネットからも申し込み可能です。
 (http://tklab.fukui-u.ac.jp/teap/)

(事務局資料)

資料 5-5-3 地域のラジオ局との連携による医療話題の提供

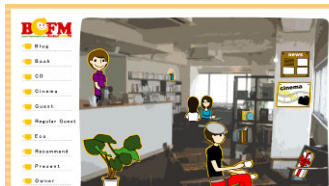
FM福井・福井大学医学部附属病院タイアップコーナー

本院では、ラジオ放送FM福井[76.1MHz(FUKUI)]のお昼の生ワイド番組「Bonjour! Coffee FM」に、各診療科等の職員が毎週水曜日の午後3時から4時の間に医療に関する話題を中心として出演しています。
 放送予定内容は、下記一覧のとおりです。また既に放送された内容については、FM福井「Bonjour! Coffee FM」のHP



<http://www.fmfukui.jp/bon/bon.html>

のメニュー“University of Fukui Hospital”で聴取可能となっています。



University of Fukui Hospital open / mon to thu 13:00 - 15:55



FM福井 放送予定一覧(平成20年3月~5月)

放送日	診療科名	テーマ	職名	出演医師等 氏名
5月7日	消化器外科	大腸癌治療最前線	科長・教授	山口 明夫
5月14日		膵臓摘下手術(傷の小さな手術とその利点)	講師	飯田 敦
5月21日	乳腺・内分泌外科	乳癌の診断と治療法	助教	前田 浩幸
5月28日	小児科	小児の尿路感染症	講師	澤原 宏一
6月4日	産科婦人科	より安全な出産のために「前置・低着胎盤に対する、新しい手術法」	科長・教授	小辻 文和
6月11日	眼科	白内障	講師	久保 江理
6月18日	呼吸器外科	胸腔鏡下手術	科長・講師	佐々木 正人
6月25日	小児科	子供アレルギー	講師	大嶋 勇成
7月2日	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	ハナの日	科長・教授	藤枝 重治 山本 英之
8月27日	眼科	網膜硝子体	助教	高村 佳弘

(附属病院HPより)

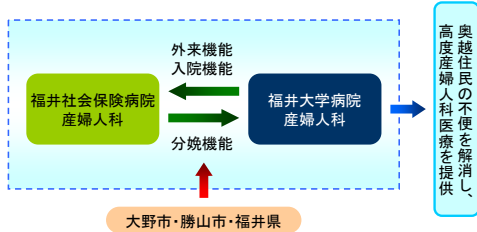
医療に関する自治体への支援体制

自治体等と医療活動に関する協定締結及び協議等により、分娩医療を休止した地域の分娩引受け支援【資料 5-5-4】、先進的な治療法の研究、災害時医師派遣、健康教室の実施等を行った【資料 5-5-5~7】。また、災害救急医療に対応するため D M A T を 2 チーム組織するとともに、能登半島地震に自主的に医師・看護師等を派遣した。

資料 5-5-4 奥越地区における分娩患者の受入について

全国的に産婦人科の医師不足が大きな話題となっており、奥越地区でも唯一の産婦人科を持つ福井社会保険病院において、平成 19 年 4 月から分娩が休止された。この対策のため、本学附属病院において分娩の受入体制を整え、奥越地区の患者の不便・不安を解消することに努めた。

医学部附属病院と福井社会保険病院との産婦人科診療連携



新たな分娩医療体制を発表する福大病院の小辻産科婦人科科長。右は上田孝典病院長。

奥越の総合病院で唯一の産婦人科を持つ福大病院に、平成 18 年度以降の分娩を休止し、2 つの病院で分娩を行う体制を整えた。福井社会保険病院では、産婦人科医師が不足しているため、福井大学医学部附属病院(金沢市)に分娩を委託している。福井大学医学部附属病院(金沢市)は、産婦人科医師が不足しているため、福井大学医学部附属病院(金沢市)に分娩を委託している。福井大学医学部附属病院(金沢市)は、産婦人科医師が不足しているため、福井大学医学部附属病院(金沢市)に分娩を委託している。

福井大付属病院 産婦人科医師の不足カバリー

全国的に産婦人科の医師不足が進行中、県内でも勝山市の福井社会保険病院が 4 月から分娩医療を休止する影響が出ているを受け、福井大学医学部附属病院(金沢市)に分娩を委託している。福井大学医学部附属病院(金沢市)は、産婦人科医師が不足しているため、福井大学医学部附属病院(金沢市)に分娩を委託している。

(福井新聞 H19.3.28)

資料 5-5-5 協定締結による先進的な治療法の研究

平成 17 年 5 月 12 日、本学医学部とスギの産地で知られる旧美山町(平成 18 年 2 月福井市に合併)との間で連携協定を締結し、花粉症治療についての研究拠点として「花粉症治療研究センター」を設置して、先進的な花粉症研究を進めている。

大学と地方自治体がアレルギー研究で連携するのは全国初であり、また、近年マイナスイメージが強まるスギ花粉を活用した新しい治療法の研究・開発を推進することにより、スギ産地としてのイメージアップにも貢献した。



(事務局資料)

資料 5-5-6 永平寺町及び嶺北消防組合との災害時医師派遣に関する協定締結

平成 19 年度，医学部附属病院と永平寺町及び嶺北消防組合との間で，集团的に発生する傷病者の救急医療対策に関する応援協定を相次いで締結した。

（永平寺町 : 平成 19 年 11 月 26 日締結
嶺北消防組合 : 平成 20 年 02 月 18 日締結）



調印後握手を交わす上田病院長と松本永平寺町長



協定書を取り交わす上田病院長と吉田消防長

集団災害時発生の際には，支援体制の充実・機関の特性に応じた応援が必須条件であり，今回の締結によって消防関係機関との連携が一層強化され，本院の医療スタッフが迅速に災害発生現場へ出動できる体制が整った。

（本学HP「ニュース&トピックス」より）

資料 5-5-7 相互友好協定締結の大野市との連携事業例

連携事業・テーマ	内容の概要	本学担当教員		担当部署
		所属	氏名	
寝たきり予防のための健康教室	高齢化率 24% を占め，多くの高齢者が農業・林業の担い手であるという大野市の実情に鑑み，要介護危険度のチェックや筋力を保持増進するなど，地域に根ざした取組を行います。	教育地域科学部	戎 利光	大野市 保健衛生課
女性のための健康増進講座	女性が一生涯を通じて健康的でいきいきとした生活を送るために，女性の身体やホルモンについて，また，女性特有のがんである乳がん・子宮がん検診を受けることの重要性，生活習慣病の予防などに対する知識・技術を分かりやすく身につけてもらうことを目的とした健康増進講座	医学部 看護学科	母子看護学・ 助産学教室	大野市 保健センター
				大野市 阪谷公民館

（事務局資料）

子どもの悩み 110 番

保護者やこどもの悩みを受け止める相談窓口「子どもの悩み 110 番」を開設し、県こども療育センターや福井弁護士会と連携して不登校、いじめ等の問題解決に努めている【資料 5-5-8,9】。

資料 5-5-8 「子どもの悩み 110 番」による悩み相談の開設

「子どもの悩み 110 番」では、本学教員の他にも弁護士や医師もスタッフとして加わり、電話での相談だけでなく、相談者の了解を得た上で、学校や教育委員会を訪れるなど、きめ細かな対応を行っている。

累計の相談件数は、累計 900 件を超え、保護者や子どもの悩みを受け止め、解決への手助けとなる貴重な窓口となっている。

「子どもの悩み110番」50回に



26日に開かれる50回目の「子どもの悩み110番」のピラを手にする福井大の森透教授＝福井市文京3丁目の福井大で

相談の3割不登校

福井大教員ら14年間で累計915件

福井の教員が電話で教育相談を受けける「子どもの悩み110番」が、26日で50回を迎える。98年からはじめて14回の割合で開設。弁護士や医師もスタッフに加わり、必要は場合学校や教育委員会と連携して対応してきた。累計の相談件数は915件を超え、保護者や子どもの悩みを受け止める窓口となっている。(白田福徳)

当時福井に勤務していた武庫川女子大学の小林剛教授や、福井大教育地域科学部の森透教授らが98年夏の3日間、学内で臨時電話を開設したのが始まり。

開設について、森教授は「現在は男子生徒は『丸刈』は森教授のほか、同学部の松本健二教授、岡大保健管理センターの細田康一准教授、このほか、福井弁護士会の藤原義典弁護士、県子ども療育センターの坂根植久医師の計5人。

14年間の相談件数は計157件、このうち最多は不登校についてで888件だった。相談者の大半は若い母親という。初は校則や体罰についての相談が多かった。この数は、LD(学習障害)やADHD(注意欠陥多動性障害)など程度発達障害に関する相談が増加傾向にある。

電話での相談だけでなく、相談者の希望で、学校や教育委員会と連携し、問題の解決を目指してきた。福井市内の種本春彦さん(24)は、いじめを受けた中学時代、母親とともに相談。森教授らスタッフが学校を訪れ解決に尽力してくれた。種本さんは「自分を本当に理解してくれた」と110番を呼び寄せ、現在は事務作業を手伝うなど運営にもかかわる。

森教授は「長年、相談にかかわる中で自分の研究の臨床的な視点も強くなった。今後も保護者や学校関係者と連携を密にしていきたい」と話している。

26日の相談は午後1時10時から、福井市文京3丁目の福井大教育地域科学部附属教育実践総合センターで、電話(0776・27・2061)・2068のほかに、面談での相談も受け付ける。

LDやADHDなど増加傾向

電話での相談だけでなく、相談者の希望で、学校や教育委員会と連携し、問題の解決を目指してきた。福井市内の種本春彦さん(24)は、いじめを受けた中学時代、母親とともに相談。森教授らスタッフが学校を訪れ解決に尽力してくれた。種本さんは「自分を本当に理解してくれた」と110番を呼び寄せ、現在は事務作業を手伝うなど運営にもかかわる。

(朝日新聞 H19.5.26)

資料 5-5-9 「子どもの悩み 110 番」のご案内

本学HPの「地域の方へ」に、相談窓口を開設している

子どものいじめや不登校について相談したい

教育地域科学部附属教育実践総合センターでは、子どものいじめや不登校、家庭での子育ての悩みなどの相談をお受けしています。

- [教育地域科学部附属教育実践総合センター](#)

子どもの悩み 110 番
一日頃の思いを語ってみませんか

小学生・中学生・高校生の皆さん。お父さんお母さん・おじいさん・おばあさん。そして、教師の皆さん。日頃の思いや悩みを語ってみませんか？

学校、家庭、地域で、悩んだり、困ったりしていませんか？
いじめ・体罰・校則、そして部活動・勉強・障害の悩み……学校へ行けなくて悩んでいませんか？

日本も批准した国連の「子どもの権利条約」では、子ども達こそが主人公です。日頃だれにも相談できないことを、電話でもファックス(FAX)でも気楽に寄せて下さい。面接相談も受付けます。弁護士や医師・大学のスタッフが一緒になって考えていきます。

もちろん、「秘密」は堅く守ります。(相談はすべて無料)



子どもの悩み110番
一日頃の思いを語ってみませんか

(本学ホームページより)

b) 「小項目5」の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている。

(判断理由)

目指すべき研究の方向性について、本学理念及び基本的な目標に則り、本学の立地、歴史、特色等に基づいた全学的に取り組むべき重点研究領域を明確にし、地域に根ざした総合的・実践的共同研究を推進した。その結果、

1. 学校改革、実践教育研究、教職大学院設置、ライフパートナー事業、地域教育研究のネットワーク化等に関し顕著な成果を上げると共に、多様な共同研究の成果を地域社会に積極的に還元した。これにより不登校児が減少したことは特筆できる。
2. 繊維・原子力を始めとする多彩な分野で、産学官連携を基盤とした共同研究を展開し、地域産業に成果を還元した。
3. 医療分野では、地方自治体と連携した疾患の予防、分娩が休止された地域の支援等に取り組む、医療資源の社会還元を図った。

小項目6「本学の立地，歴史，特色等から目指すべき研究の方向性と全学的に取り組むべき重点研究領域を明確にし，強力に推進する」の分析

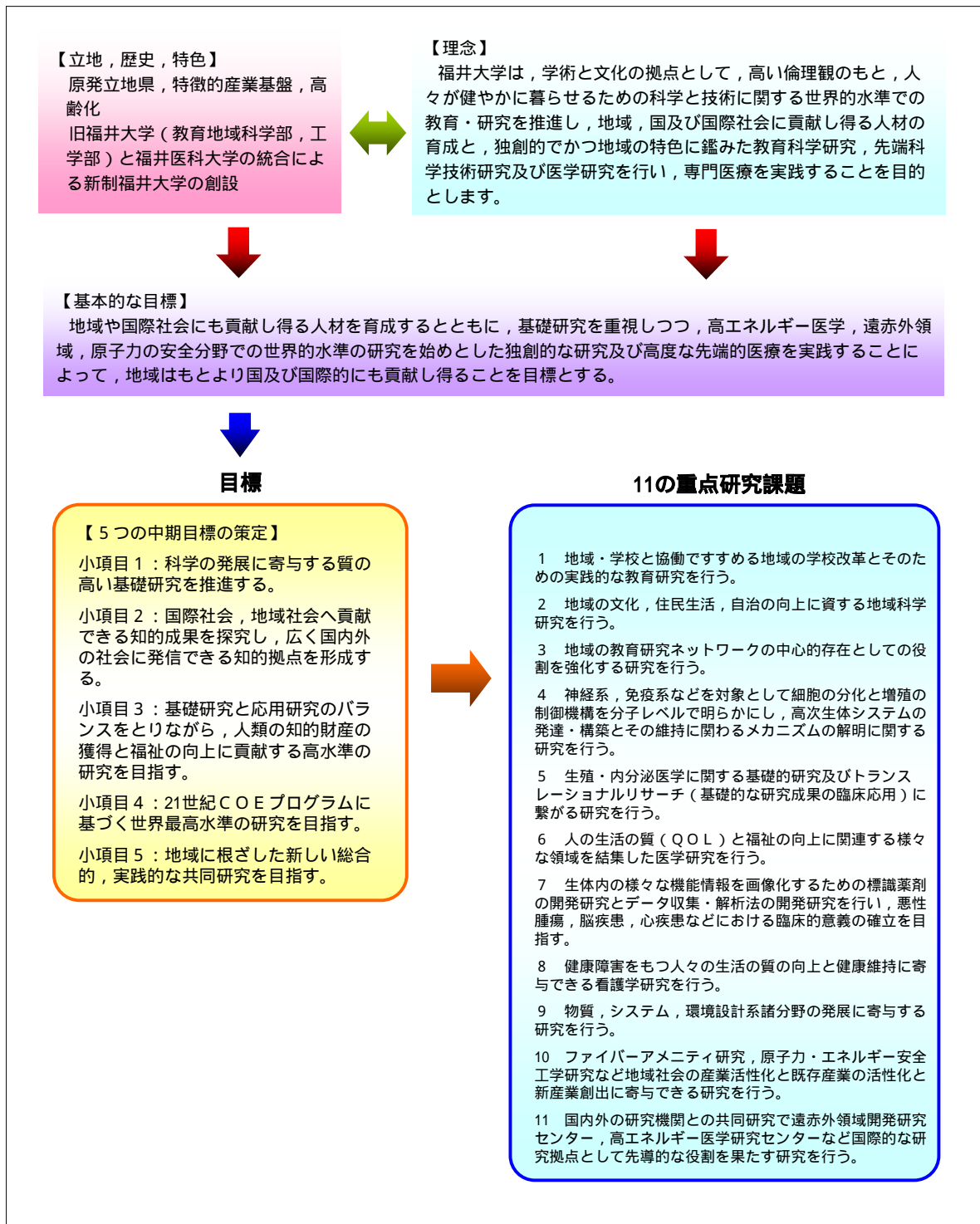
a) 関連する中期計画の分析

計画 6-1「本学の理念・基本的な目標に則り，独創的かつ特色のある研究課題（分野）を設定し，推進する。」に係る状況

研究課題の設定

本学の理念及び基本的な目標に則り，研究に関する中期目標の実現を企図した計 11 の重点研究課題を設定した【資料 6-1-1,2】。

資料 6-1-1 重点研究課題設定のフローチャート



（事務局資料）

資料 6-1-2 第 1 期中期目標期間における福井大学の重点研究課題

本学の特色を踏まえ、当該中期目標期間において全学的に取り組むべき 11 の重点研究領域を設定し、重点的に研究費を配分して、各研究領域における研究を推進している。

福井大学重点研究課題（第 1 期中期目標期間）

	重点研究課題名	該当の小項目番号
1	地域・学校と協働で進める地域の学校改革とそのための実践的な教育研究	5
2	地域の文化・住民生活・自治の向上に関する地域科学研究	5
3	地域の教育研究ネットワーク中心的存在としての役割を強化する研究	2
4	神経系・免疫系などを対象として細胞分化と増殖の制御機構を分子レベルで明らかにし、高次生態システムの発達・構築・維持に関わるメカニズムの解明に関する研究	1
5	生殖・内分泌医学に関する基礎的研究及びトランスレーショナルリサーチに繋がる研究	3
6	QOLと福祉の向上に関する様々な領域を結集した医学研究	3
7	生体内の様々な機能情報を画像化するための標識薬剤の開発研究	4
8	健康障害をもつ人々の生活の質の向上と健康維持に寄与できる看護学研究	3
9	物質、システム、環境設計系諸分野の発展に寄与する研究	1
10	ファイバーアメニティ研究、原子力・エネルギー安全工学研究など地域社会の産業活性化と既存産業の活性化と新産業創出に寄与できる研究	2
11	国内外の研究機関との共同研究で遠赤外領域開発研究センター・高エネルギー医学研究センターなど国際的な研究拠点として先導的な役割を果たす研究	2

(事務局資料)

研究の推進と成果

重点研究推進のため、研究経費や人的支援体制の整備に努め【資料 6-1-3,4】、独創的で地域の特色に鑑みた教育科学研究，先端科学技術研究，医学研究及びそれらの融合分野の研究を推進し，小項目 1～5 に述べたように数々の特筆すべき成果を上げた。

資料 6-1-3 重点配分経費による研究支援

学長を財務の最終責任者として，中期目標・中期計画実施のための予算編成を行い，収入増及び経費削減については，毎年度目標を設定する等の基本的原則を定めた上で，予算編成方針・予算原案は，経営協議会，役員会の議を経て学長が最終決定している。

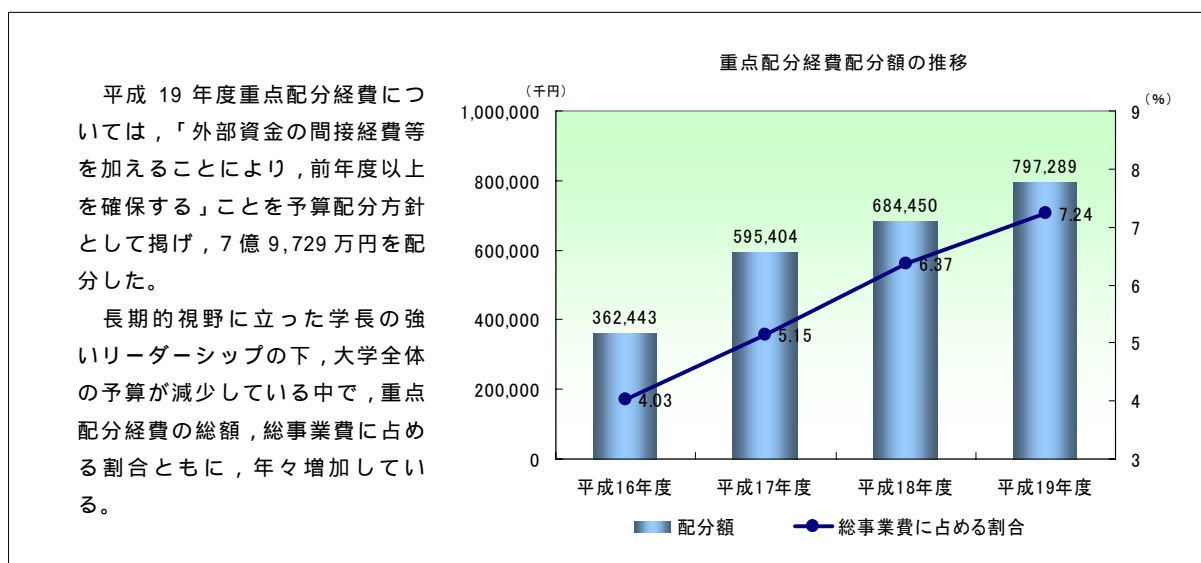
この方針に基づき，学長の強いリーダーシップの下，長期的視野に立った大学の戦略・重点課題を達成し，社会的ニーズの変化に柔軟かつ機動的に対応するための経費「重点配分経費」を措置している。

平成 19 年度重点配分経費配分方針

事 項	配分方針	平成 19 年度配分額
学長裁量経費	中期目標・中期計画を遂行するために，学長のリーダーシップの下に実施されるトップダウン型のプロジェクト経費及び基礎的・萌芽的研究分野に係る公募採択型経費を措置 トップダウン型のプロジェクト経費（中期計画・中期目標を遂行するための経費） 基礎的・萌芽的研究分野に係る教育・研究を行うための競争的経費 全学的施設の改修等に必要経費	167,000 千円
学部長裁量経費	学部レベルにおいても，学部長のリーダーシップを通じて教育研究の推進を実施 教育地域科学部長裁量経費（科研費等申請支援経費，教育プロジェクト経費等） 工学研究科長裁量経費（公募型の萌芽研究支援経費・調査経費等） 医学部長裁量経費（任期付助教に対する研究支援経費，外部資金導入促進経費等）	30,927 千円
余剰ポイント数に応じたポイント相当還元額及び教育研究組織係数経費	地域手当 1% 支給時の人員計画に基づき算定し，重点配分経費として学部等へ再配分	156,459 千円
競争的配分経費	更なる競争的環境の創出・推進を図るための「競争的配分経費」として，学内公募型の若手研究者支援経費及び教育活動支援経費を措置	30,470 千円
決算剰余金	平成 18 年度の学部等の繰越額について，重点配分経費として学部等へ再配分	290,091 千円
間接経費等執行経費	研究環境の改善及び充実，研究活動の推進，研究支援業務の遂行に必要な事項に措置	122,342 千円

（事務局資料）

資料6-1-4 重点配分経費配分額の推移



(事務局資料)

b) 「小項目6」の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている。

(判断理由)

目指すべき研究の方向性について、本学理念及び基本的な目標に則り、本学の立地、歴史、特色等に基づいた全学的に取り組むべき重点研究領域を明確にし、学長の強いリーダーシップの下、研究経費や人的支援体制の強化に積極的に取り組み、11の重点研究課題を強力に推進した。その結果、小項目1～5に記述した通り、すべての研究課題で顕著な成果を上げた。

小項目7「研究の水準・成果を的確に評価・フィードバックして研究の質の向上を図る」の分析

a)関連する中期計画の分析

計画 7-1「重点研究領域の選定，研究成果の評価，評価結果のフィードバックシステムに関する審議機関を設置し，研究の水準・成果と質の向上のための方策を検討する。」に係る状況

重点研究推進に関する機関の設置

学長のリーダーシップにより，重点領域プロジェクト研究の推進並びに予算の重点配分を実現した【P80 資料 6-1-3】。研究担当理事を委員長とする研究推進委員会を設置し【資料 7-1-1】，さらに各重点領域の推進を担う実務組織を置いた。また，産学官連携推進本部を置き，研究の推進及び水準・成果と質の向上に努めた【P24 資料 2-4-3】。

資料 7-1-1 研究推進委員会の構成リスト，議事録(抜粋)

平成19年度 研究推進委員会委員一覧

委員長	理事（副学長）研究・評価 総合実験研究支援センター長	伊藤 春海	(H19.4.1-)
委員	附属図書館長 / 理事（副学長）教育・学生	中川 英之	(H19.4.1-)
"	地域共同研究センター長	高島 正之	
"	高エネルギー医学研究センター長	藤林 康久	
"	遠赤外領域開発研究センター長	齊藤 輝雄	
"	総合情報処理センター長	高橋 謙三	(H19.4.1-)
"	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長	山本 嵩勇	
"	生命科学複合研究教育センター長	佐藤 真	
"	教育地域科学部教授	梅澤 章男	(H19.4.1-)
"	医学部教授	宮本 薫	
"	工学研究科教授	小倉 久和	(H19.4.1-)
"	総務部総務部長	西岡 衛	(H19.4.1-)

(任期:平成18年4月1日~平成20年3月31日)

研究推進委員会 議事録【抜粋】

平成19年4月12日(木) 16:30~18:00

【報告事項】

平成18年度重点研究に係る研究成果の審査結果について

委員長から，資料に基づき，平成18年度重点研究「プロジェクト研究」等の採択者による研究成果発表会を3月に実施し，その際の審査結果について報告があった。

委員から，この審査結果の活用方法や評価結果の本人へのフィードバックの在り方等について意見が出され，今後検討の上，学長方針を示すこととなった。

平成19年6月11日(月) 16:30~17:15

【協議事項】

平成19年度重点研究「プロジェクト研究」等の採択について

委員長から，資料に基づき，学長裁量経費による「プロジェクト研究」等の採択原案について提案があり，検討の結果これらを承認した。

(事務局資料)

研究の水準・成果と質の向上に関する取組

重点研究領域に関する研究課題の募集・選定では、科研費申請を応募条件とし、知的財産本部による新規性のプレサーチを実施して質の向上を図った【資料 7-1-2, P70 資料 5-4-3】。また、成果集の刊行と同時に成果発表会を開催し、研究成果の評価を実施して次年度の重点課題選定や支援に反映させた【資料 7-1-3～5】。

資料 7-1-2 科研費申請を応募条件とする研究課題の募集

平成20年3月14日	
教員各位	
研究推進委員会委員長	
福井大学重点研究「学長裁量経費」及び「競争的配分経費」の募集について（通知）	
このことについて、本年度も福井大学重点研究に係る学長裁量経費（「基礎的・萌芽的研究」、「学部間学内共同研究」）及び競争的配分経費が配分されることとなりました。ついては、下記により研究課題を募集しますので、多数の申請をお願いします。	
記	
募集する研究課題の種別 いずれも全学の中期目標・中期計画に沿った研究であることが望ましい。	3 「競争的配分経費」(2,097万円)
1 「基礎的・萌芽的研究」(学長裁量経費から1,000万円)	(1) 対象者・募集内容等
(1) 対象者・募集内容等 対象者は 科研費継続採択者または20年度申請した者に限る 。研究課題は、基礎的・萌芽的研究分野で、将来COEに結びつく可能性の大きいものとする。	・対象者は、若手(准教授以下)とし、 科研費継続採択者または20年度申請した者に限る 。 ・研究課題は、将来プロジェクト研究やCOEに結びつくような可能性、発展性に富んだものであること。
(2) 研究経費の配分額の目安 1件当たり配分額は200万円を上限とする。	(2) 研究経費の配分額の目安 1件当たり配分額は100万円を上限とする。
(3) 研究課題の決定 学長が決定する。また、学長は全学的視野から別途の研究課題を設定し、その実施を指示することがある。	(3) 研究課題の決定 本委員会が行う。
2 「学部間学内共同研究」(学長裁量経費から300万円)	申請の要領
(1) 対象者・募集内容等 ・対象者は、複数学部間連携による研究を実施する者で、今後進展が期待できるもの、ただし、研究代表者は 科研費継続採択者または20年度申請した者に限る 。 ・研究課題は、将来プロジェクト研究やCOEに結びつくような可能性、発展性に富んだものであること。 ・他の研究種目との重複申請は可とする。(ただし、同一研究課題は不可)	1 別紙様式により、メールの添付ファイル又はFDで研究推進課研究協力係に提出のこと。また、「基礎的・萌芽的研究」又は「学部間学内共同研究」に応募する者は、「研究情報・特許情報検索依頼書」についても提出のこと。 (メールアドレス: skkenkyo-k@sec.iopc.fukui-u.ac.jp) (なお、研究終了後は報告書を提出いただくとともに研究成果発表会を行います。)
(2) 研究経費の配分額の目安 1件当たり配分額は100万円を上限とする。	2 「基礎的・萌芽的研究」と「競争的配分経費」の重複申請は認めない。
(3) 研究課題の決定 本委員会が行う。	3 締め切り日:平成20年4月25日(金)

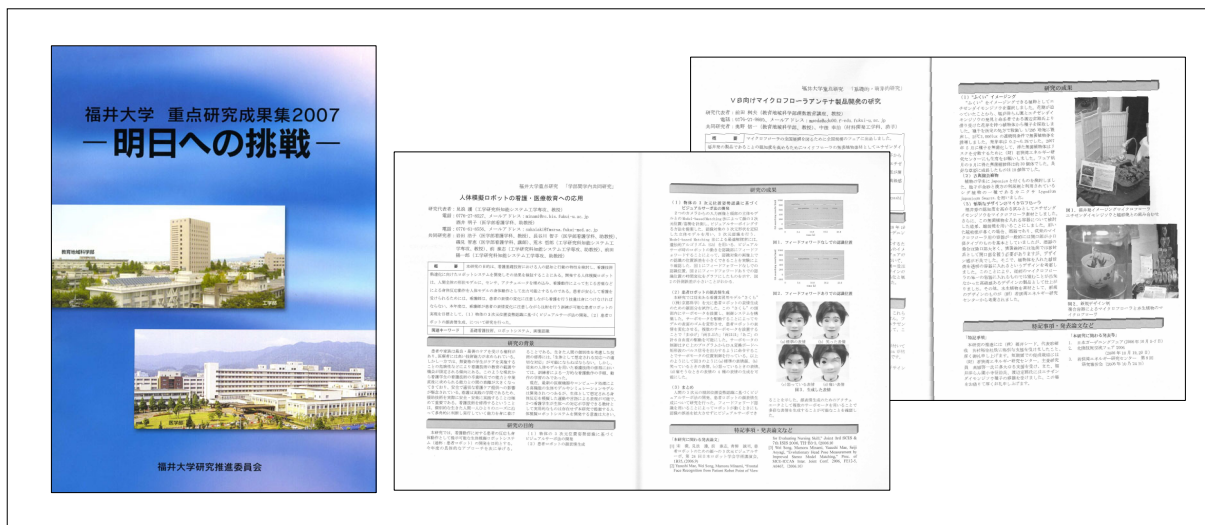
(事務局資料)

資料 7-1-3 学内重点研究成果発表会の開催と成果の評価

<p>件名:学内重点研究成果発表会について 揭示係等:研究・研究協力係 掲載日時:18日 17時 揭示期間:1日 0時まで 学内重点研究成果発表会を次のとおり開催しますので、プログラムをご覧ください 興味のある発表にご参加頂きますよう、お願いします。</p>				
<p>※松岡キャンパス 3月 5日 13:30～16:00 総合実験研究支援センター1階会議室 3月10日 13:30～16:00 総合実験研究支援センター1階会議室 3月24日 14:00～16:30 研究棟3階会議室 ※文京キャンパス 3月 7日 9:45～12:15 産学官連携本部3階研修室 3月11日 9:30～10:30 産学官連携本部3階研修室 3月13日 9:30～11:00 産学官連携本部3階研修室 3月21日 9:30～10:30 産学官連携本部3階研修室</p>				
タイプ	ファイル名又はタイトル	サイズ	最終更新日時	説明
Excel	重点研究成果発表会プログラム	37KB	18日 17時	
<p>事務用電子掲示板に掲載された「学内重点研究成果発表会」の通知と発表会の様子</p>				

(事務局資料)

資料 7-1-4 研究成果報告集「明日への挑戦」

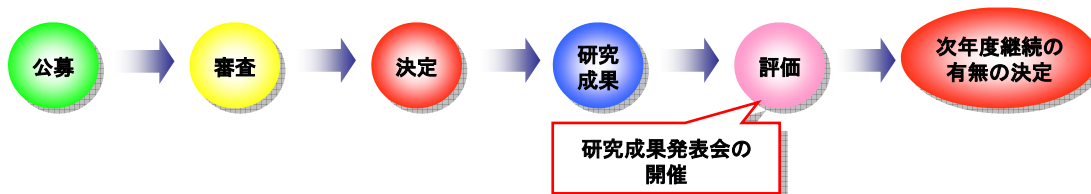


(福井大学重点研究成果集 2007)

資料 7-1-5 重点配分経費における評価結果に基づく資源配分について

重点配分経費中の学長裁量経費・競争的配分経費に関する研究課題の選定に当たっては、各教員から研究課題を公募し、学内外の産学官連携コーディネータや関係委員会等による一次審査、ヒアリング等による二次審査を通じて採択順位と配分額の原案を作成し、学長が最終決定を行っている。

これらの経費については、年度末に報告書の提出を義務付けるとともに、研究成果発表会の開催による複数の審査員による採点を行い、その採点結果を次年度の継続採択に反映させている。



(事務局資料)

b) 「小項目 7」の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている。

(判断理由)

1. 研究担当理事を委員長とする研究推進委員会と実務組織を置き、研究の水準と質の向上のための方策の検討・実施、重点研究領域の選定、研究成果の評価、評価結果のフィードバックシステム構築等、活発に活動を行った。
2. 産学官連携本部を置き、新規性プレサーチの実施等、研究の推進及び水準と質の向上に努めた。なかでも研究成果発表会を開催して成果を評価し、その結果を次年度の重点課題選定や支援に反映させたことは特筆できる。

中項目 1 の達成状況

(達成状況の判断)

目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由)

目指すべき研究の方向性について、本学理念及び基本的な目標に則り、本学の立地、歴史、特色等に基づいた全学的に取り組むべき重点研究領域を明確にし、学長の強いリーダーシップの下、研究経費や人的支援体制を強化しつつ、質の高い基礎研究、国際・地域社会へ貢献できる知的拠点形成、人類の知的財産獲得と福祉向上に貢献する高水準の研究、21世紀COEプログラム「生体画像医学の統合研究プログラム」に基づく世界最高水準の研究教育拠点形成、及び地域に根ざした総合的・実践的共同研究を強力に推進した。

その結果、イオンチャネル調節機構、原子核物理学、地域教育研究のネットワーク構築、地域産業活性化・創出、研究成果公表のシステム構築、生殖・内分泌医学、人工関節開発、産学官連携に基づく知的財産形成、放射線診断教育、生体画像医学研究、学校改革、教職大学院設置、産学官連携を基盤とした地域共同研究、医療資源の社会還元等の分野で顕著な成果を上げた。

これらの取組により得られた成果は、国内外の研究者に注目され、大型プロジェクトの採択等多くの外部資金の獲得に繋がった。これは先端的であるとともに、地域・学界・産業界に十分貢献する研究を推進できたことの証左である。

また、得られた研究成果は様々な手法を用いて広く社会に還元し、その結果は、共同・受託研究件数、特許出願件数、大学発ベンチャー起業件数、協力会会員数、技術相談件数の大幅な増加に現れている。

優れた点及び改善を要する点等

(優れた点)

1. 高エネルギー医学研究センターでは、21世紀COEプログラム等の大型研究費を基盤として、多様な基礎・臨床応用研究に取り組むと共に、国内外機関との共同研究・国際会議の開催等を通じ、国際的研究教育拠点を形成した。(計画 4-1, 4-2, 2-3)
2. 地域の学校改革と実践的な教育研究に取り組む、教職大学院の設置に結実した。(計画 5-1)
3. 神経系、免疫系分野の研究は、Cell 誌の月間ダウンロード数 1 位の研究成果や、論文引用度指数の高い研究成果に結実した。(計画 1-1)
4. 遠赤外領域開発研究センターでは、国外機関との学术交流・共同研究等を通じ、国際的研究拠点形成を図った。(計画 2-3)
5. 産学官連携を推進し、共同・受託研究件数、協力会会員数、大学発ベンチャー起業件数、特許出願件数、技術相談・指導件数等が大幅に増加した。(計画 3-4, 5-4)

(改善を要する点)

なし

(特色ある点)

- 1 . 福井県の立地・特色に基づき , ファイバーアメニティ研究 , 原子力・エネルギー安全工学研究を推進した。(計画 2-2)
- 2 . 自治体等と医療活動に関する協定を締結し , 社会問題となっている分娩医療受入支援等を実施した。(計画 5-5)
- 3 . 知的財産本部による教員研究のプレサーチを実施し , 新規性を有する研究の推進を図った。(計画 3-4 , 5-4)
- 4 . 研究成果発表会を開催して成果を評価し , その結果を次年度の重点課題選定や支援に反映させた。(計画 7-1)